

学科到達目標

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分
					1年				2年				3年				4年				5年					
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	1111101	履修単位	2	2	2																	新井修 中島一			
一般	必修	1111A01	履修単位	4	4	4																	田上隆徳, 榎田雅弘, 山田耕太郎, 西森康人, 浮田卓也, 遠藤健太			
一般	必修	1111A02	履修単位	2	2	2																	田上隆徳, 榎田雅弘, 山田耕太郎, 西森康人, 浮田卓也			
一般	必修	1111B02	履修単位	1		2																	松尾俊寛, 園昭彦			
一般	必修	1111D02	履修単位	1		2																	山田洋平, 園昭彦			
一般	必修	1111F01	履修単位	2	4																		松尾俊寛, 園昭彦, 吉村洋, 大田直友, 山田洋平			
一般	必修	1111G01	履修単位	2	2	2																	錦織浩文			
一般	必修	1111H01	履修単位	2	2	2																	藤井浩美			
一般	必修	1111H02	履修単位	2	2	2																	谷中俊裕			
一般	必修	1111H03	履修単位	2	2	2																	プロウクトリスト, ファー小笠原麻衣子			
一般	必修	1111I01	履修単位	2	2	2																	藤居岳人			
一般	必修	1131G01	履修単位	4	4	4																	矢崎満夫			
一般	必修	1131G02	履修単位	4	4	4																	矢崎満夫			
一般	必修	1131G03	履修単位	2	2	2																	矢崎満夫			
一般	選択	1191201	履修単位	2	2	2																	上月佳代			
一般	必修	1112101	履修単位	2			2	2															新井修 中島一			
一般	必修	1112A01	履修単位	4			4	4															田上隆徳, 榎田雅弘, 山田耕太郎, 西森康人, 浮田卓也			

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	1111101		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	新井 修, 中島 一				
到達目標					
1. 互い協力し合い、主体的に運動に参加できる。 2. 自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる 3. 安全に留意して運動や活動ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を判断し、適切に働きかけながら準備や活動に参加できる。		自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。		周囲に合わせて、準備や活動をすることができる。
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける事ができる。		教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動をとる事ができる。		教員の指示により、安全に留意することができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯に渡って運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、運動自体を楽しみながら、各運動に必要な技能の習得及び、体力の向上を図ることに重点を置く。				
授業の進め方・方法	各種目のルールを説明、基本的な技能の習得、ゲームの実践と段階的に競技を行なう。 授業時間 60 時間				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動して下さい。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
		2週	バスケットボール	バスケットボールのルールを理解し説明できる。	
		3週	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		4週	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート等の個人技能を習得する。	
		5週	バスケットボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		7週	バレーボール	バレーボールのルールを理解し説明できる。	
		8週	バレーボール	サーブ、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
	2ndQ	9週	バレーボール	サーブ、パス、スパイク等の個人技能を習得する。	
		10週	バレーボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	卓球	卓球のルールを理解し説明できる。	
		2週	卓球	サーブ、レシーブ、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		3週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	卓球	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		7週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	

4thQ	8週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。
	9週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。
	10週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。
	11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	13週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	基礎数学 1
科目基礎情報					
科目番号	1111A01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	4	
教科書/教材	「数学 I, 数学 II」(数研出版) / 「新課程 チャート式基礎からの 数学 I + A, II」, 「新課程 練習ドリル 数学 I, 数学 II」(数研出版)				
担当教員	田上 隆徳, 櫛田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也, 遠藤 健太				
到達目標					
1. 多項式の基本的な計算ができる。 2. 2次関数について理解し、具体的な事象の考察や2次不等式を解くことに活用できる。 3. 三角関数について理解し、その計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)		
到達目標1	和や積の組み合わせを工夫して、式の展開や因数分解を行うことができる。	多項式の計算ができる。	基本的な多項式の計算ができる。		
到達目標2	具体的な事象に対し、2次方程式や2次不等式を用いて、問題を解決することができる。	2次関数について理解し、2次方程式や2次不等式を解くことができる。	基本的な2次方程式や2次不等式を解くことができる。		
到達目標3	具体的な事象に対し、三角関数を用いて問題を解決することができる。	三角関数およびそのグラフ等について理解し、三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。	基本的な三角関数を含む方程式や不等式を解くことができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。基礎数学1では、方程式と不等式、2次関数、図形と計量及び三角関数について基礎的な知識と技能を習得する。また、それらを的確に活用する能力を養い、数学的な見方や考え方を身につける。				
授業の進め方・方法	【授業時間120時間】				
注意点	1. 授業に集中し、効率的に学習する方法を確立すること。 2. 数学力の定着には、日々の復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.1 式の計算	整式の加法、減法、乗法の計算ができる。	
		2週	1.1 式の計算	公式を利用して因数分解ができる。	
		3週	1.1 式の計算	式の形の着目して、複雑な式の因数分解ができる。	
		4週	1.2 実数	実数の概念とその性質について理解できる。	
		5週	1.2 実数	根号を含む式について四則計算ができる。	
		6週	1.3 1次不等式	不等式の性質を理解し、1次不等式を解くことができる。	
		7週	1.3 1次不等式	1次不等式を身近な問題の解決に活用できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	2.1 2次関数とグラフ	関数とグラフの関係について理解し、グラフから関数の最大値・最小値を求めることができる。	
		10週	2.1 2次関数とグラフ	一般的の2次関数のグラフをかける。	
		11週	2.1 2次関数とグラフ	2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	
		12週	2.2 2次方程式と2次不等式	2次方程式を解くことができる。	
		13週	2.2 2次方程式と2次不等式	判別式を利用して、2次方程式の解を分類することができる。	
		14週	2.2 2次方程式と2次不等式	判別式を利用して、2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べることができる。	
		15週	2.2 2次方程式と2次不等式	2次関数のグラフを利用して2次不等式を解くことができる。	
		16週	前期末試験		
後期	3rdQ	1週	3.1 三角比	正弦・余弦・正接を理解し、記号 $\sin\theta$, $\cos\theta$, $\tan\theta$ で表すことができる。	
		2週	3.1 三角比	正弦・余弦・正接の相互関係を理解し、それぞれの値を求めることができる。	
		3週	3.1 三角比	三角比の定義を拡張し、 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の角 θ に対し、値を求めることができる。	
		4週	3.2 三角形への応用	正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	
		5週	3.2 三角形への応用	余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	

4thQ	6週	3.2 三角形への応用	正弦定理・余弦定理を適切に選んで活用することができる。
	7週	3.2 三角形への応用	三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。
	8週	後期中間試験	
	9週	4.1 三角関数	一般角について理解し、角を弧度法で表すことができる。
	10週	4.1 三角関数	いろいろな三角関数の値を求めることができる。
	11週	4.1 三角関数	三角関数について成り立つ等式を利用できる。
	12週	4.1 三角関数	三角関数のグラフをかくことができる。
	13週	4.1 三角関数	三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。
	14週	4.2 加法定理	加法定理を利用して三角関数の値を求めることができる。
15週	4.2 加法定理	加法定理から導かれる公式を利用できる	
16週	学年末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	前1
				実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の簡単な計算ができる。	3	前1
				平方根の基本的な計算ができる(分母の有理化も含む)。	3	前4,前5
				解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	前12,前13
				簡単な連立方程式を解くことができる。	3	前1
				1次不等式や2次不等式を解くことができる。	3	前6,前7,前14,前15
				2次関数の性質を理解し、グラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。	3	前10,前11
				角を弧度法で表現することができる。	3	後9,後10,後11
				三角関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後12,後13
				加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	3	後14,後15
				三角関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後11
				三角比を理解し、簡単な場合について、三角比を求めることができる。	3	後1,後2,後3
一般角の三角関数の値を求めることができる。	3	後9,後10				
簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表すことができる。	3	前6				

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数学A
科目基礎情報					
科目番号	1111A02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「数学A, 数学Ⅰ, 数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A, Ⅱ」, 「新課程 練習ドリル 数学A, Ⅰ, Ⅱ」(数研出版)				
担当教員	田上 隆徳, 榎田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也				
到達目標					
1. 場合の数を, 順列や組み合わせと関連して理解し整理できる。 2. 確率を集合との関係でとらえて計算できる。 3. 指数関数及び対数関数について理解し, その計算ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安
到達目標 1	場合の数, 順列や組合せのやや複雑な計算ができる。		場合の数, 順列や組合せの標準的な計算ができる。		場合の数, 順列や組合せの基本的な計算ができる。
到達目標 2	具体的な事象に対し, 確率を集合との関係で理解することができ, やや複雑な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 標準的な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 基本的な計算ができる。
到達目標 3	指数関数及び対数関数について理解し, やや複雑な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 標準的な計算ができる。		確率を集合との関係で理解することができ, 基本的な計算ができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。集合や命題の学習を通して論理的な思考を身につけ, 場合の数や確率を通して日常の中に現れる数学を学ぶ。また, 指数関数・対数関数について学び, 事象を数学的に考察し処理する能力とそれらを活用する態度を育てる。				
授業の進め方・方法	1. 授業に集中し, 効率的に学習する方法を確立すること。 2. 数学力の定着には, 日々の予習復習が必要不可欠である。積極的に取り組むこと。 3. 定期試験と数学実力試験は同等に扱う。また提出物および小テストの状況も重視される。 4. 提出物の期限は厳守すること。 【授業時間 60 時間】				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1.1 集合	集合について理解できる。	
		2週	1.1 集合	補集合とド・モルガンの法則を理解できる。	
		3週	1.2 場合の数	集合の要素を理解できる。	
		4週	1.2 場合の数	集合の要素の個数を理解できる。	
		5週	1.2 場合の数	順列の計算ができる。	
		6週	1.2 場合の数	順列の計算ができる。	
		7週	1.2 場合の数	組合せの計算ができる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	1.2 場合の数	組合せの計算ができる。	
		10週	1.3 確率	事象と確率を理解できる。	
		11週	1.3 確率	確率の基本性質を理解できる。	
		12週	1.3 確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		13週	1.3 確率	独立な試行の確率を求めることができる。	
		14週	1.3 確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		15週	1.3 確率	反復試行の確率を求めることができる。	
		16週	前期末試験返却		
後期	3rdQ	1週	2. 命題と条件	命題と条件について理解できる。	
		2週	2. 命題と条件	必要条件, 十分条件について理解できる。	
		3週	2. 命題と条件	命題と証明について理解できる。	
		4週	3.1 指数関数	指数法則を理解できる。	
		5週	3.1 指数関数	累乗根の計算ができる。	
		6週	3.1 指数関数	指数が有理数である指数法則を理解できる。	
		7週	3.1 指数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	3.1 指数関数	指数の拡張に関する計算ができる。	
		10週	3.1 指数関数	指数関数とそのグラフの関係を理解できる。	
		11週	3.1 指数関数	指数関数を含む方程式, 不等式を解くことができる。	
		12週	3.2 対数関数	指数と対数の関係を理解できる。	

	13週	3.2 対数関数	対数とその性質を理解できる。
	14週	3.2 対数関数	対数関数とそのグラフの関係を理解できる。
	15週	3.2 対数関数	対数関数を含む方程式、不等式を解くことができる。
	16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。	3	後2,後3
				指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後6,後7
				指数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後4,後5
				対数の意味を理解し、対数を利用した計算ができる。	3	後9,後10
				対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	後11,後12
				対数関数を含む簡単な方程式を解くことができる。	3	後11,後12
				積の法則と和の法則を利用して、簡単な事象の場合の数を数えることができる。	3	前3,前4
				簡単な場合について、順列と組合せの計算ができる。	3	前5,前6,前7,前9
				独立試行の確率、余事象の確率、確率の加法定理、排反事象の確率を理解し、簡単な場合について、確率を求めることができる。	3	前10,前11,前12,前13,前14,前15
条件付き確率、確率の乗法定理、独立事象の確率を理解し、簡単な場合について確率を求めることができる。	3	前12,前13,前14,前15				

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校	開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理 1
科目基礎情報				
科目番号	1111B02	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教養	対象学年	1	
開設期	後期	週時間数	2	
教科書/教材	総合物理 1 (数研出版)、リードα問題集 (数研出版)			
担当教員	松尾 俊寛, 園田 昭彦			

到達目標

物体にはたらく力を理解し、図で表すことができる。物体に対する力のつりあいの式を立てることができる。物体の運動に関してニュートンの3法則を用いた基本的な計算を行うことができる。静止摩擦力と動摩擦力の違いについて説明でき、計算できる。力のモーメントに関して理解している。物体の運動エネルギー、重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーに関して理解している。保存力について説明できる。力学的エネルギーの保存則に関する問題を解くことができる。力学的エネルギーが保存しない場合の問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)
1. 力	物体にはたらく力を図示でき、その関係を説明でき、力の計算ができる。	物体にはたらく力を図示でき、力の計算ができる。	重力や弾性力などの計算ができる。
2. 力のつりあいの式	力のつりあいの諸問題について解くことができる。	複数の物体にはたらく力のつりあいの式を求めることができる。	斜面上における物体にはたらく力のつりあいの式を求めることができる。
3. 慣性の法則	慣性の法則に関する諸問題について解くことができる。	慣性の法則について説明することができる。	慣性の法則が成り立つ例を挙げることができる。
4. 運動方程式	2体に多数の力がはたらく際の運動方程式を立てることができ、解を求めることができる。	2体における運動方程式を立てることができ、解を求めることができる。	1体における運動方程式を立てることができ、解を求めることができる。
5. 作用・反作用の法則	作用・反作用の法則に関する諸問題について解くことができる。	作用・反作用の法則について説明することができる。	作用・反作用の法則にしたがう例を挙げることができる。
6. 静止摩擦力と動摩擦力	摩擦力とその他の力がはたらく物体における複合問題を解くことができる。	静止摩擦力と動摩擦力の標準的な問題を解くことができる。	静止摩擦力と動摩擦力の違いについて説明できる。
7. 圧力、浮力	圧力と浮力における発展問題を解くことができる。	圧力と浮力における標準問題を解くことができる。	圧力と浮力における基本問題を解くことができる。
8. 力のモーメント	剛体の転倒に関する問題を解くことができる。	剛体の力のつりあいの式と力のモーメントのつりあいの式を立てることができる。	力のモーメントの計算ができる。
9. 仕事・仕事率	力が一定でない場合の仕事について理解し、説明できる。	仕事と仕事率の標準問題を解くことができる。	仕事と仕事率の定義を説明でき、計算することができる。
10. 運動エネルギーと位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの一般論を理解し、説明することができる。	位置エネルギーの基準点について正確に理解し、標準問題を解くことができる。	運動エネルギーと位置エネルギーの式を書くことができ、簡単な計算問題が解くことができる。
11. 力学的エネルギーの保存則	重力やばねによる位置エネルギーに関連した複合問題を解くことができる。	力学的エネルギーの保存則の式を運動エネルギーと仕事の関係式から導出でき、標準問題を解くことができる。	力学的エネルギーの保存則の式を書くことができ、基本問題を解くことができる。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然現象を科学的に解明するための見方、考え方を身につける。物理は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識・素養を身につけることを目的とする。1年生では、力学を中心に学習する。
授業の進め方・方法	講義では積極的に発言し、理解できないことや疑問に思ったことなどは質問すること。また、友達や先輩などを捕まえて積極的に議論を行うこと。予習→講義→復習、このサイクルを大切に、自分の理解度が定量的に分かるようにしておくこと。
注意点	簡単な物理実験を行う場合がある。そのときは事前に連絡を行う。

授業の属性・履修上の区分

<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用	<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
-------------------------------------	--	--	---

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	力のつりあい	図を用いて力のつりあいの式を立てることができる
		2週	運動の法則1	運動の3つの法則を説明できる
		3週	運動の法則2	簡単な系に対して運動方程式を立てることができる
		4週	運動の法則3	斜面上の物体の運動方程式をあつかえる
		5週	運動の法則4	2物体の運動方程式をあつかえる
		6週	摩擦を受ける運動1	静止摩擦力と最大摩擦力を説明できる
		7週	摩擦を受ける運動2	動摩擦力を説明できる
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	液体や気体から受ける力	圧力、浮力を説明できる
		10週	剛体にはたらく力1	力のモーメントのつりあいについて説明できる
		11週	剛体にはたらく力2	剛体の転倒に関する問題を解くことができる
		12週	仕事とエネルギー	仕事とエネルギーの関係について説明できる

	13週	運動エネルギー	運動エネルギーを計算できる
	14週	位置エネルギー	種々の位置エネルギーを計算できる
	15週	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則を使って問題を解くことができる
	16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				物体に作用する力を図示することができる。	3	
				力の合成と分解をすることができる。	3	
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	
				慣性の法則について説明できる。	3	
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	
				簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	3	
				運動の法則について説明できる。	3	
				静止摩擦力ははたしている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	
重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3					
弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3					
力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3					
力のモーメントを求めることができる。	3					
剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3					
重心に関する計算ができる。	3					

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	50	20	20	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学 1
科目基礎情報					
科目番号	1111D02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	化学基礎 (第一学習社)、フォローアップドリル化学基礎 (数研出版)、新課程 リードα化学基礎+化学 (数研出版)、新課程 化学図録 (数研出版)				
担当教員	山田 洋平, 園田 昭彦				
到達目標					
1. 化学結合の概念と物質が持つ性質をリンクさせて説明できる。 2. 代表的なイオンや化学物質の名前や化学式を記述できる。 3. 化学反応式の係数を正しく決定でき、その係数に基づき化学反応を定量的に扱うことができる。 4. pHの定義を二つ (アレニウス、ブレンステッド・ローリー) 説明できる。また、典型的な中和反応式を書くことができる。 5. 中和反応の滴定実験の原理や滴定曲線について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安
1. 化学結合	共有結合・イオン結合・金属結合および、それらに付随する概念 (極性・結晶など) について正確に説明できる。関連する演習問題を8割以上解くことができる。		共有結合・イオン結合・金属結合および、それらに付随する概念 (極性・結晶など) について簡易に説明できる。関連する演習問題を7割程度は解くことができる。		共有結合・イオン結合・金属結合および、それらに付随する概念 (極性・結晶など) について一部説明できる。関連する演習問題のうち基本問題であれば5割程度解くことができる。
2. 化学式・イオン式	教科書に記載のある物質の名前や化学式を8割以上覚え、書くことができる。		教科書に記載のある物質の名前や化学式を7割程度は覚え、書くことができる。		教科書に記載のある物質の名前や化学式を5割程度は覚え、書くことができる。
3. 物質質量・化学反応式・量的関係	化学反応式の係数を正確に決定できる。また係数に基づき、量的関係を正確に説明できる。過不足のない反応だけでなく、過不足のある反応についても量的関係を正確に計算できる。		(7割程度) 化学反応式の係数を決定できる。また係数に基づき、量的関係を説明できる。過不足のない反応だけでなく、過不足のある反応についても量的関係を計算できる。		(5割程度) 化学反応式の係数を決定できる。また係数に基づき、量的関係を説明できる。過不足のない反応だけでなく、過不足のある反応についても量的関係を計算できる。
4. pHの定義・中和反応式の記述	pHの定義を二つ説明できる。応用的なpHの計算問題を解くことができる。		pHの定義を一つ以上説明できる。標準的なpHの計算問題を解くことができる。		pHの定義を復習すれば一つ以上説明できる。pHに関する基礎的な問題であれば解くことができる。
5. 酸・塩基滴定実験の原理	中和滴定において、反応式から量的関係・滴定曲線の形などを予測し説明できる。		中和滴定において、少しのヒントが与えられれば反応式から量的関係・滴定曲線の形などを予測し説明できる。		中和滴定において、基礎的なレベルであれば量的関係を計算したり、滴定曲線の形などについて考察できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	前期の理工学基礎での知識をベースにして、更に化学の学習を進めていく。化学に関する重要語句や概念が数多く出てくるので、語句の意味については学生自身が説明できるようになるまで、反復して覚えること。また、定量的に化学反応を扱う能力を身に付けること。				
授業の進め方・方法	基本的に、解説と演習のサイクルで授業を進めていく。演習の際には集中して問題を解くこと、分からないことがあれば積極的に議論すること。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	共有結合	共有結合の原理を説明できる。分子模型を用いて簡単な分子を組み立てることができる。	
		2週	共有結合	簡単な物質の電子式と構造式が書ける。	
		3週	配位結合・分子の極性	配位結合と分子の極性を説明できる。	
		4週	分子間の結合	分子結晶の特徴を説明できる。極性分子間に働く力を説明できる。	
		5週	物質質量	原子量、分子量、式量の考え方を説明できる。	
		6週	物質質量	物質質量を用いた簡単な計算ができる。	
		7週	溶液濃度	溶液濃度の定義を学び、濃度を計算する。	
	8週	中間試験	中間試験		
	4thQ	9週	化学反応式	化学反応式の量的関係に関する簡単な計算問題が解ける。	
		10週	化学反応式	化学反応式の量的関係に関する簡単な計算問題が解ける。	
		11週	酸と塩基	酸と塩基の定義を説明できる。	
		12週	酸と塩基	簡単なpHの計算問題が解ける。	
		13週	酸と塩基	中和反応の量的関係を説明できる。	
		14週	酸と塩基	中和滴定実験の操作の原理を説明できる、滴定実験を行うことができる。	
15週		酸と塩基	中和滴定曲線や指示薬の選択について簡単な説明ができる。		

	16週	期末試験	期末試験返却
--	-----	------	--------

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	物質が原子からできていることを説明できる。	3	
			単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
			同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
			純物質と混合物の区別が説明できる。	3	
			混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3	
			物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3	
			水の状態変化が説明できる。	3	
			物質の三態とその状態変化を説明できる。	3	
			原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3	
			同位体について説明できる。	3	
			放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3	
			原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3	
			価電子の働きについて説明できる。	3	
			原子のイオン化について説明できる。	3	
			代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3	
			原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3	
			元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3	
			イオン式とイオンの名称を説明できる。	3	
			イオン結合について説明できる。	3	
			イオン結合性物質の性質を説明できる。	3	
			イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3	
			共有結合について説明できる。	3	
			構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3	
			自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3	
			金属の性質を説明できる。	3	
			原子の相対質量が説明できる。	3	
			天然に存在する原子が同位体の混合物であり、その相対質量の平均値として原子量を用いることを説明できる。	3	
	アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用い物質の量を表すことができる。	3			
	分子量・式量がどのような意味をもつか説明できる。	3			
	気体の体積と物質量の関係を説明できる。	3			
	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。	3			
	化学反応を用いて化学量論的な計算ができる。	3			
	電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。	3			
質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。	3				
モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。	3				
酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	3				
酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	3				
電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	3				
pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	3				
中和反応がどのような反応であるか説明できる。	3				
中和滴定の計算ができる。	3				
ガラス器具の取り扱いができる。	3				
基本的な実験器具に関して、目的に応じて選択し正しく使うことができる。	3				
試薬の調製ができる。	3				

評価割合

	試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	50	20	20	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	理科総合
科目基礎情報					
科目番号	1111F01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	前期		週時間数	4	
教科書/教材	総合物理 1 (数研), リードα問題集物理 (数研出版), 化学基礎 (第一学習社), リードα問題集化学 (数研出版), 地学基礎 (啓林館), 生物基礎 (東京書籍)				
担当教員	松尾 俊寛, 園田 昭彦, 吉村 洋, 大田 直友, 山田 洋平				
到達目標					
理工学基礎: 工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。 物理: 物体の運動に関してニュートンの3法則を用いた基本的な計算を行うことができる。 化学: 身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて理解できる。 地学: 地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動について説明できる。 生物: 生物の進化や多様性・生態系について理解するとともに、地球環境問題の原因や保全対策について説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)
理工学基礎	工学、自然科学で対象とする量や単位について、原理を理解し、自在に取り扱うことができる。		工学、自然科学で対象とする量や単位に関する典型的な問題について取り扱いができる。		工学、自然科学で対象とする量や単位について、基本的な取り扱いができる。
物理	速度、加速度を説明でき、斜方投射の公式を導出でき、応用問題を解くことができる。		速度、加速度を説明でき、斜方投射の公式を導出でき、基本問題を解くことができる。		速度、加速度を説明でき、斜方投射の公式に当てはめて、基本問題を解くことができる。
化学	身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて説明でき、問題解決に応用できる。		身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて説明できる。		身の回りにおける物質の性質やその変化を、化学的な観点(化学結合や物質質量)を用いて理解できる。
地学	地球の表層や内部構造について説明でき、プレート境界での地震活動を説明できる。		地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動を説明できる。		地球の表層や内部構造について理解し、プレート境界での地震活動を理解できる。
生物	生物の進化や多様性、生態系について理解し、持続可能な社会を目指すための環境保全活動ができる。		生物の進化や多様性、生態系について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる。		生物の進化や多様性、生態系について理解し、環境問題の生物への影響や保全対策が理解できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	理科の総合的学習を通じて、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然現象を科学的に解明するための見方、考え方を身につける。物理・化学・生物・地学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識・素養を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	理工学基礎(第1~2週)、地学・生物(第3~7週)、物理・化学(第9週以降)の順に授業を行う。 【授業時間60時間】				
注意点	地学、生物分野の成績評価についてはレポート課題によって行う。(各10%)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	理工学基礎: 有効数字	数値の取り扱い方を理解し、有効桁数を考慮した数値の計算ができる。	
		2週	理工学基礎: 数値と単位	数値の意味を理解し、種々の物理量に単位をつけることができる。	
		3週	地学: 宇宙と地球 生物: 生物進化と生物多様性	地学: 地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。 生物: 生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		4週	地学: 宇宙と地球 生物: 生物進化と生物多様性	地学: 地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。 生物: 生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		5週	地学: 大気と海洋 生物: 生物進化と生物多様性	地学: 地球の外観について理解し、地球表層や内部の地学的事象を説明できる。 生物: 生物の構造を知り、進化や多様性について理解できる	
		6週	地学: 大気と海洋 生物: 人間活動と地球環境の保全	地学: 地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。 生物: 生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる	
		7週	地学: 大気と海洋 生物: 人間活動と地球環境の保全	地学: 地球の大気圏、水圏での基礎的な現象を説明できる。 生物: 生態系の構成要素とその関係について理解し、地球環境問題の原因と影響、保全対策について説明できる	
		8週	中間試験		

2ndQ	9週	物理：変位・速度・加速度 化学：物質の成分	物理：変位・速度・加速度の定義を説明できる 化学：混合物と純物質の違い、混合物を分離・生成する方法を説明できる。
	10週	物理：変位・速度・加速度 化学：物質の成分	物理：平面運動の変位が説明できる 化学：化合物と単体、同素体、物質の三態などの用語を説明できる。
	11週	物理：変位・速度・加速度 化学：原子の構造	物理：相対速度の問題が解ける 化学：原子の構造、電子配置の考え方を説明できる。
	12週	物理：変位・速度・加速度 化学：原子の構造・周期表	物理：等加速度直線運動の公式を運用して問題が解ける 化学：周期表と電子配置の関係を説明できる。
	13週	物理：落体の運動 化学：周期表	物理：自由落下、鉛直投射の問題が解ける 化学：族と周期、金属元素と非金属元素などの語句を説明できる。
	14週	物理：落体の運動 化学：化学結合	物理：水平・斜方投射の問題が解ける 化学：化学結合の概要を説明できる。
	15週	物理：いろいろな力 化学：イオン化、イオン結合	物理：重力や弾性力、摩擦力の性質を説明できる 化学：イオン化の生成やイオン化の際に必要なエネルギーを説明できる。イオン結合と説明でき、組成式が記述できる。
	16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	前9		
			直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	前10,前11		
			等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	前12		
			平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	前10		
			物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3			
			平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	前9		
			自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前13		
			水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前14		
			化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	1	
					洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	1	
					物質が原子からできていることを説明できる。	3	
					単体と化合物がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
					同素体がどのようなものか具体例を挙げて説明できる。	3	
					純物質と混合物の区別が説明できる。	3	
	混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。	3					
	物質を構成する分子・原子が常に運動していることが説明できる。	3					
	水の状態変化が説明できる。	3					
	物質の三態とその状態変化を説明できる。	3					
	原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。	3					
	同位体について説明できる。	3					
	放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。	3					
	原子の電子配置について電子殻を用い書き表すことができる。	3					
	価電子の働きについて説明できる。	3					
	原子のイオン化について説明できる。	3					
	代表的なイオンを化学式で表すことができる。	3					
	原子番号から価電子の数を見積もることができ、価電子から原子の性質について考えることができる。	3					
	元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。	3					
	イオン式とイオンの名称を説明できる。	3					
	イオン結合について説明できる。	3					
	イオン結合性物質の性質を説明できる。	3					
	イオン性結晶がどのようなものか説明できる。	3					
	共有結合について説明できる。	3					
	構造式や電子式により分子を書き表すことができる。	3					
自由電子と金属結合がどのようなものか説明できる。	3						
金属の性質を説明できる。	3						
化学実験	化学実験	測定と測定値の取り扱いができる。	3				

				有効数字の概念・測定器具の精度が説明できる。	3	
				レポート作成の手順を理解し、レポートを作成できる。	3	
		ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。	3	前3,前4
				地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	3	前3,前4
				陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。	3	前6,前7
				地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	3	前3,前4
				マグマの生成と火山活動を説明できる。	3	前3,前4
				地震の発生と断層運動について説明できる。	3	前3,前4
				地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	3	前5,前6
				プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。	3	前5,前6
				地球上の生物の多様性について説明できる。	3	前3
				生物の共通性と進化の関係について説明できる。	3	前3,前4
				生物に共通する性質について説明できる。	3	前3,前4
				大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。	3	前6,前7
				大気の大循環を理解し、大気の運動を説明できる。	3	前6,前7
				大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	3	前6,前7
				海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。	3	前6,前7
				植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	3	前6
				世界のバイオームとその分布について説明できる。	3	前6
				日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	3	前6
				生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	3	前6,前7
				生態ピラミッドについて説明できる。	3	前6,前7
		生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	3	前6,前7		
		熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	3	前6,前7		
		有害物質の生物濃縮について説明できる。	3	前6,前7		
		地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3	前6,前7		
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	

評価割合						
	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	40	10	20	10	20	100
基礎的能力	30	10	20	10	20	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語総合
科目基礎情報					
科目番号	1111G01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	高専日本語アビリティ I (阿南高専) / 常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				
担当教員	錦織 浩文				
到達目標					
1. 情報の収集・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。 2. 実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 3. 古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル(優)		標準的な到達レベル(良)		最低限の到達レベル(可)
到達目標1	情報の収集・整理を適切に行い、論理的な構成・適切な表現スキルにより口頭発表できる。		情報の収集・整理を適切に行い、論理的な構成により口頭発表できる。		情報の収集・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。
到達目標2	実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を適切に用いて即応的に作成できる。		実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を適切に用いて作成できる。		実用的な文章を、目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。
到達目標3	古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を自分の考えを加えて適切に説明できる。		古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を適切に説明できる。		古文・漢文の表現を理解し、意味・内容を説明できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	科学技術に関するものを含む広範囲な日本語を対象に、より高度な理解、柔軟な発想・思考、豊かな口頭表現を含む効果的なコミュニケーションや主体的な表現ができることを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業は、文章表現に関する学習・練習を基本とする。また、表現力・理解力を育むために漢字学習を行う。【授業時間60時間】				
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること（マンガ、雑誌、テキストを除く）。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	シラバスにより、到達目標、評価割合、達成度基準等を理解する。	
		2週	文書作成 (履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成できる。	
		3週	文書作成 (履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成できる。	
		4週	文書作成 (履歴書)	適切な言葉遣い、構成法を用いて履歴書を作成できる。	
		5週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語をもちいて、適切な敬語を使用できる。	
		6週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語をもちいて、適切な敬語を使用できる。	
		7週	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語をもちいて、適切な敬語を使用できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	詩歌作成 (短歌)	短歌の形式に則り、短歌を作成できる。	
		10週	詩歌作成 (短歌)	短歌の形式に則り、短歌を作成できる。	
		11週	文書作成 (通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成できる。	
		12週	文書作成 (通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成できる。	
		13週	文書作成 (通信文)	通信文の形式に則り、通信文を作成できる。	
		14週	詩歌作成 (俳句)	俳句の形式に則り、俳句を作成できる。	
		15週	詩歌作成 (俳句)	俳句の形式に則り、俳句を作成できる。	
		16週	答案返却		
後期	3rdQ	1週	文章作成 (超短文)	テーマに沿った効果的な短文を作成できる。	
		2週	文章作成 (超短文)	テーマに沿った効果的な短文を作成できる。	
		3週	古文 (物語)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		4週	古文 (物語)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		5週	古文 (日記)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		6週	古文 (随筆)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		7週	古文 (紀行文)	古文 (該当部分) の意味・内容を説明できる。	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	発表 (POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表できる。	
		10週	発表 (POPを用いた本の紹介)	POPを作成し、本の魅力を発表できる。	

	11週	小論文	小論文作成のための構成メモを作成できる。
	12週	小論文	テーマに沿って小論文を作成できる。
	13週	漢文（漢詩）	漢詩の基礎を理解し説明できる。
	14週	漢文（格言）	格言の意味・内容を説明できる。
	15週	漢文（格言）	格言の意味・内容を説明できる。
	16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	2	後9,後10,後11
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	前8,前9,前10,前14,前15,後1,後2,後8
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	前9,前10,前14,前15,後1,後2
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	後12,後13
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前11,前12,前13
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	後14,後15
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	前1,後14,後15
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	後14,後15
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	後11,後14,後15
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	後11,後14,後15
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	後14,後15
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	後14,後15			

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	20	10	0	100
基礎的能力	70	0	20	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語 1
科目基礎情報					
科目番号	1111H01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	CREATIVE English Communication 1, 同準処予習・授業ノート, およびWORKBOOK (第一学習社) WORD BOX【エッセンシャル】およびWORD BOX 学習ノート1、2 (美誠社)				
担当教員	藤井 浩美				
到達目標					
1. 予習復習を含む着実な英語の学習習慣を身につける。 2. 情報や考えなどを的確に理解し、概要や要点をとらえることができる英文読解力を身につける。 3. 教科書や語彙集に登場する語彙やチャンクの意味を理解し習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル
到達目標1	予習復習などの英語学習習慣の確立に加え、自分なりの目標を設定し意欲的・積極的に学習に取り組んでいる。		予習復習を中心に着実な英語の学習習慣が身に付いている。		予習復習などの英語の学習習慣が身につけておらず、受動的な姿勢で授業に臨んでいる。
到達目標2	自然科学・環境問題・日本文化・先端科学・社会問題などに関する350~600語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえ、自分の意見や考えを表現できる。		自然科学・環境問題・日本文化・先端科学・社会問題などに関する350~600語程度の英文を読んで、要点や詳細をとらえることができる。		自然科学・環境問題・日本文化・先端科学・社会問題などに関する350~600語程度の英文を読んで、概要を理解できる。
到達目標3	教科書の読み物や語彙集で扱われた語句を80%以上の正確さで理解している。英語語彙力が2500語レベルである。		教科書の読み物や語彙集で扱われた語句を60~79%以上の正確さで理解している。英語語彙力が2000語レベルである。		教科書の読み物や語彙集で扱われた語句の習得が60%未満にとどまっている。英語語彙力が1500語レベル以下にとどまっている。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。同時に、教科書の音読を通して英語の発音と自然なリズムと直読直解のスキルを身に付ける。さらに、語彙集を用いて語句やチャンクを暗記し、語句の使い方を学習し、語彙力を増やす。				
授業の進め方・方法	教科書準拠の予習ノートを用いて授業を行う。予習では、新出単語や不明な語句を辞書を使って調べる。授業は確認テストから始める。その後、単元の学習のポイントを説明し、音読やシャドウイングを行ってインプットの定着を促進する。復習として、その単元のワークブックの問題を解き、学習内容の定着を図る。語彙集に関しては、小テストを随時行い、学習の進捗を確認する。 【授業時間60時間】				
注意点	1. 授業には必ず英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 2. オリエンテーションで指示するやり方で、十分予習復習と語彙学習を行うこと。 3. 特別課題として、長期休暇中に課題を課す。 4. 語彙集を用いて、単語テストを実施する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	新入生課題テスト (WORD BOX stage 0) オリエンテーション、Lesson 1(1)	・学習方法についての理解 教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		2週	Lesson 1(1) WORD BOX (unit 1 ~unit 5)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		3週	Lesson 1(2) WORD BOX (unit 6 ~unit 8)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		4週	Lesson 1(3) WORD BOX (unit 9 ~unit 11)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		5週	Lesson 1(4) WORD BOX (unit 12 ~unit 14)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		6週	Lesson 1 確認テスト WORD BOX (unit 15 ~unit 17)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		7週	Lesson 3(1) WORD BOX (unit 18 ~unit 20)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		8週	Lesson 3 (2) WORD BOX (unit 26 ~unit 28)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
	2ndQ	9週	前期中間試験 WORD BOX (これまでの復習 & unit 21 ~unit 25)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	

		10週	前期中間答案返却/語彙力診断テスト Lesson 3(3)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		11週	Lesson 3 (4) WORD BOX (unit 29 ~unit 31)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		12週	Lesson 3 確認テスト WORD BOX (unit 32 ~unit 34)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		13週	Lesson 5 (1) WORD BOX (unit 35 ~unit 37)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		14週	Lesson 5 (2) WORD BOX (unit 38 ~unit 40)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		15週	前期末試験対策	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
		16週	前期末答案返却		
	後期	3rdQ	1週	課題テスト: WORD BOX (unit 41 ~ unit 60) Lesson 5 (3)	定着度を測るための確認テスト (夏休み明け実施) 教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			2週	Lesson 5 (4) WORD BOX Unit 61~ Unit 63)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			3週	L5 確認テスト WORD BOX (unit 64 ~unit 66)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			4週	Lesson 7(1) WORD BOX (unit 67 ~unit 70)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			5週	Lesson 7(2) WORD BOX (unit 76 ~unit 78)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			6週	Lesson 7(3) WORD BOX (unit 79 ~unit 81)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			7週	Lesson 7(4) WORD BOX (unit 82 ~unit 84)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
			8週	L7 確認テスト WORD BOX (unit 85 ~unit 87)	定着度を測るための確認テスト
		4thQ	9週	後期中間試験 WORD BOX (これまでの復習 & unit 71 ~unit 75)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。
10週			Lesson9(1) WORD BOX (unit 88 ~unit 90)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
11週			Lesson 9 (2) WORD BOX (unit 88 ~unit 90)	定着度を測るための確認テスト	
12週			Lesson 9(3) WORD BOX (unit 91 ~unit 93)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
13週			Lesson 9(4) WORD BOX (unit 94 ~unit 95)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
14週			L9 確認テスト	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
15週			学年末試験 WORD BOX (これまでの復習 & unit 96 ~unit 100)	教科書に収録されているさまざまな題材の読み物の読解演習を通して、正確な読解力と重要語句や重要文法事項を習得する。	
16週			学年末答案返却		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
評価割合					
	定期試験	小テスト	課題・取り組み姿勢	発表・取り組み姿勢	合計
総合評価割合	60	20	20	0	100

基礎的能力	60	20	20	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語A
科目基礎情報					
科目番号	1111H02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	ブレイクスルー英文法36章/副教材: ブレイクスルー英文法36章ワークブック、リスニング問題集All Ears Basic 改訂版、同学習ノート、参考書: ブレイクスルー総合英語 (すべて美誠社)				
担当教員	谷中 俊裕				
到達目標					
1. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 2. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 3. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文の知識を利用して文レベルの英作文(和文英訳)ができる。 4. リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル		
評価項目1	基本的な英文法の内容や構文を理解し、文法用語を用いて英文を分析し、正確に説明できる。	基本的な英文法の内容や構文を理解し、それらを用いて例文のポイントの概略を説明できる。	基本的な英文法の内容や構文の理解が最低限のポイントを理解し、例文でその該当部分を指摘できる。		
評価項目2	学習した文法や構文の知識を用いて、文単位で英文を正しく解釈できる。	若干の語句のヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、文単位で英文を解釈できる。	ポイント以外の語句までヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、文単位で英文を解釈できる。		
評価項目3	学習した文法や文法の内容や構文の知識を用いて、正しい1文単位の英作文ができる。	若干の語句のヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、正しい1文単位の英作文ができる。	ポイント以外の語句までヒントがあれば、学習した文法や構文の知識を用いて、文単位の英作文ができる。		
評価項目4	リスニング教材で取り扱う英文のシャドウイングが完全にできる。	速読で取り扱う英文を、若干発音が正確でない語句があるが、全文をシャドウイングできる。	速読で取り扱う英文を、若干発音できない語句があるが、全体としては遅れずにシャドウイングできる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英文法の理解を通じて英語の4技能のうち2技能(「読む」・「書く」)の基礎力を固める。また、補助教材のリスニング教材の演習で「聞く」力を高め、会話表現を学習することと音読練習を通して「話す」力の基礎も伸ばす。				
授業の進め方・方法	文法は文法項目についての講義のあと、問題集を用いてEnglish Grammar 36の問題演習に取り組む。予習には基本例文ノートを用い、復習にはEnglish Grammar 36のワークブックを用いる。併せてリスニング教材を用いて少しずつリスニング演習を行う。また、基本例文の小テストを実施する。				
注意点	1. プリント類や問題集を日頃からキチンと整理しておくこと。 2. 授業には必ず辞書(電子辞書可)を持ってくること。 3. 提出物の期限は厳守すること。 4. 下記授業計画以外に小テストや提出課題を課す。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	(1)シラバスなどを通して授業の目標や方法を理解する。	
		2週	文の種類	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		3週	基本文型(1)	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		4週	基本文型(2)	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		5週	様々な疑問文	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		6週	基本時制	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	

後期		7週	復習問題 All Ears L1	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。 (4)リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ		9週	進行形	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			10週	完了形(1)	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		11週	完了形(2)など	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		12週	復習問題 All Ears L2	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。 (4)リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。	
		13週	復習問題 All Ears L3	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。 (4)リスニング教材の英文を正確にシャドウイングできる。	
		14週	助動詞(1) All Ears L4	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
		15週	小テスト		
		16週	前期末試験および答案返却		
	3rdQ		1週	助動詞(2) All Ears L5	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			2週	助動詞(3) All Ears L6	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			3週	受動態(1) All Ears L7	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			4週	受動態(2) All Ears L8	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			5週	受動態(2) All Ears L9	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
			6週	不定詞(1) All Ears L10	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
7週			不定詞(2) All Ears L11	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	
8週			後期中間試験		
4thQ		9週	不定詞(3) All Ears L12	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。	

		10週	不定詞 (4) All Ears L13	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		11週	不定詞 (4) All Ears L14	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		12週	動名詞 (1) All Ears L15	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		13週	動名詞 (2) All Ears L17	(1)教科書で学ぶ基本的な英文法の内容や構文を理解できる。 (2)(1)の知識を利用して文レベルで英文を解釈できる。 (3)(1)の知識を利用して英作文ができる。
		14週	復習問題	
		15週	小テスト	
		16週	学年末試験および答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	50	10	40	0	0	100
基礎的能力	50	10	40	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語コミュニケーション基礎
科目基礎情報					
科目番号	1111H03		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Stretch Starter Student Book				
担当教員	プロフント クリストファー, 小笠原 麻衣子				
到達目標					
1.教科書の各ユニットの会話をディクテーション、シャドーイングでできる。 2.各ユニットの重要表現を習得しやり取りできる。また、それを英作文で活用できる。 3.英語で行われる授業に慣れ、躓いても辞書に頼らず推測するスキルを身に付ける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
到達目標1	教科書各ユニットの内容が十分理解でき、音声をディクテーションできる。正しい発音でシャドーイングできる。		教科書各ユニットの内容が理解でき、音声を半分以上はディクテーションできる。文章を見ながらであれば正しい発音でシャドーイングできる。		教科書各ユニットの内容がだいたい理解できる。空所補充形式などヒントのディクテーションしかできない。リピーティングの音読しかできない。
到達目標2	教科書各ユニットのトピックに関連する重要表現を用いて活発にやり取りができる。また、80ワード程度の作文を正確に書くことができる。		教科書各ユニットのトピックに関連する重要表現を用いてやり取りができる。また、70ワード程度の作文を書くことができる。		教科書各ユニットのトピックに関連する重要表現を使つての発話にとどまり、やり取りは十分できない。また、作文の語数が70ワードに満たない。
到達目標3	クラスルームイングリッシュ(授業で教師が使う指示や会話の英語)が完璧に理解できなくても推測する習慣を身につける。また、自分の使える英語表現を存分に使い、相手とネゴシエーション(意思疎通、交渉、議論)する姿勢とスキルを習得する。また授業やグループワークでは会話をリードできる。		クラスルームイングリッシュが完璧に理解できなくても推測する習慣を身につける。また、自分の使える英語表現を駆使して、他の生徒と協力してネゴシエーションする姿勢とスキルを習得する。		クラスルームイングリッシュの理解が不十分で活動ができない。英語での意思疎通も困難である。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語コミュニケーション基礎では、授業自体を英語で行う。後期のネイティブ教師によるオールイングリッシュの授業に備え、前期はリスニング力を強化していく。ディクテーション(聞いて書き取る)、シャドーイング(復唱)などのボトムアップリスニングで基礎を固め、授業を英語で行うことによりトップダウンリスニング(推測しながら英語を聞く)に慣れる。前期・後期を通じて、スポーツ、映画、旅行などさまざまなトピックを取り上げて英語学習を進めて行く。教科書で扱う新しい英語表現を身につけるとともに、学習や活動の過程で、中学校までの既習英語を積極的に使う機会を設け、教師やクラスメイトとの積極的なやり取りも促して行く。				
授業の進め方・方法	授業は授業計画に沿って進める。教科書のユニットごとにトピックが設定されており、毎週そのトピックについて学習し、翌週に当該ユニットのワークブック(教科書後半)で理解度を確認する。3ユニットごとにSelf-Assesmentのペーシを使って復習し定着を図る。毎週授業前に教科書に目を通しておくこと。ONLINE PRACTICE(教科書の最後にあるアクセスコードで登録すると、オンライン学習できます)を利用して予習しておく、授業内容が理解しやすいだろう。授業は英語で行い、授業中のやり取りも英語で行うが、日本語禁止ではない。クラスメイトと確認し合う、困っている人をサポートする、など協力して理解を深められるような雰囲気を作っておこう。また、授業外でも生きた英語に触れられるよう、参考資料や動画をmanabaにアップする。自分でも興味のあることは、さまざまなメディアを活用して英語で情報収集するなど積極的に英語に触れる機会を作るよう心掛けよう。				
注意点	1.ワークブックへの書き込みチェックのため、教科書の提出あり 2. 適宜小テストを行う 3. manabaで動画視聴やレポート提出あり				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・自己紹介・Unit 1 : Meeting People		当該授業のシラバスをよく読み、教科書の使い方、授業の進め方、評価方法などを確認。Unit1を学習し自己紹介をする
		2週	Unit 1 Workbook		事前学習としてワークブックに取り組み、登場人物を紹介することができる
		3週	Unit 2 : Countries and nationalities		国、国籍に関する表現を学び、友達や有名人を紹介することができる
		4週	Unit 2 Workbook		事前学習としてワークブックに取り組み、さまざまな国の観光地や料理を紹介することができる。
		5週	Unit3 : Family		家族に関する表現を学び、自分の家族について話すことができる。また相手の家族について質問することができる。
		6週	Quiz1・Unit 3 Workbook		事前学習としてワークブックに取り組み、家族について話す上でのマナーを身につける。
		7週	Self-Assesment Unit 1-3		Unit1-3の理解度を確認し、理解できていない、また忘れた箇所を復習する。中間試験の準備をする。
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	前期中間試験返却・Unit 4 : Describing people		人物を描写する上で必要な、身長、髪、年齢、ファッションを含めた見た目に関する表現を学ぶ。

		10週	Unit 4 Workbook・ワークブック提出	事前学習としてワークブックに取り組み、有名人を描写することができる。また、見た目について質問することができる。
		11週	Unit 5 : Food and drink	食べ物や飲食、レストランに関する表現を学習し、自分の好きな食べ物、レストランについて紹介することができる。
		12週	Unit 5 Workbook	事前学習としてワークブックに取り組み、世界各国のフードカルチャーに関する知識を身につけ、食レポ(60words程度)を書く。
		13週	Quiz 2・Unit6 : Things we do	日常生活について現在形を使って述べることができる。現在進行形と区別する。
		14週	Unit 6 Workbook・ワークブック提出	事前学習としてワークブックに取り組み、p.32Cのチャートを文章化(70words程度)し、自分の日課について述べるすることができる。
		15週	Self-Assesment Unit 4-6	Unit4-6の理解度を確認し、理解できていない、また忘れた箇所を復習する。期末試験の準備をする。
		16週	答案返却	
後期	3rdQ	1週	Unit 8: Free Time Activities	現在形を正しく使って、日常生活や週末の出来事を話すことができる。"How often…?"などの時間に関する表現を使い質問ができる。
		2週	Unit 8: Reading and Writing	表やグラフを使って、著者のねらいや、内容の概要が分かる。
		3週	Workbook: Culture Talk (Too Much Screen Time)	事前学習としてワークブックに取り組み。統計や数字を含んだアナウンスメントの概要を聞き取ることができる。クラスで、アンケート調査を実施することができる。
		4週	Unit 9: Popular Sports	canを使って、能力を表すことができる。"and" や "but" を用いて正しく文章(重文)を作成できる。
		5週	Workbook: Culture Talk (Women's Soccer)	事前学習としてワークブックに取り組み。日本と他国の文化比較ができる。比較表現を使い80語程度の作文を書くことができる。
		6週	Unit 9: Listening and Presenting	クラブ活動や、日常での運動について発表し、クラスメイトと質疑応答できる。
		7週	Quiz 3・Self-Assessment Units 8-9 Review	余暇時間の活動について頻度を表す表現を正しく使って話すことができる。また、wh疑問文を使う、それに答えるやり取りができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	後期中間試験返却 Unit 10: Big Events intro	人生の中の重要な出来事について話すことができる。日時に関する表現を使うことができる。
		10週	Unit 10: Big Events	"be"動詞と "going to" や "gonna"など自然な表現ができる。アクティブなリスニングができる。
		11週	Interview (Vacation Planning and pronunciation work)	時系列に関する表現を使いクラスメイトにWHから始まる質問をし、また、相互に過去形を使ってやり取りができる。
		12週	Unit 11: Making Plans	写真見て未来を予測し、それを正しい未来表現を使って述べるができる。会話の中で話者の予定を聞きながら英語でノートを取ることができる。
		13週	Unit 11: Accepting or Declining an Invitation	様々なフレーズを使って、招待に受け答えできる。また、その理由を丁寧な表現を使って丁寧に説明できる。
		14週	ワークブック提出・Unit 12: On Vacation	過去形を正しく使い、休日について話すことができる。会話が広がる質問や受け答えのフレーズを身につけ、実際のやり取りで活用できる。
		15週	Self-Assessment Units 10-12 Review for final exam	これまでに学習した文法と語彙で、過去形と現在形を用いてクラスメイトと質疑応答ができる。
		16週	答案返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	

			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
		英語運用能力向上のための学習	英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながらる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながらるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	提出物	取り組み姿勢	合計
総合評価割合	60	10	20	10	100
基礎的能力	60	10	20	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	倫理
科目基礎情報					
科目番号	1111I01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	倫理(数研出版)/講義中に、適宜、紹介します。				
担当教員	藤居 岳人				
到達目標					
1. 日本とは異なった外国文化等、倫理・思想に関する基礎的な知識について説明できる。 2. 「ものづくり」に関する調査を通して、技術者と倫理との関係について基礎的な内容を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)		
到達目標1	倫理・思想に関する基礎的な知識について詳細に説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、その概要を説明できる。	倫理・思想に関する基礎的な知識について、その要点を説明できる。		
到達目標2	調査レポートの論旨が明快で、その内容について詳細に説明できる。	調査レポートがまとまっており、その内容について十分に説明できる。	調査レポートの論旨がやや不明瞭だが、その内容についてある程度説明できる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	我々人間は社会の中で生活している関係上、自己実現を果たしながら、なおかつ他者とうまく折り合いをつけてゆく必要があります。自己と他者との間の、共感できる点や異質な点について自分なりに考えるところに「倫理」が生まれます。本講義では、自己と他者との関係について自分で考えるための材料を提供してゆきたいと思います。また、「ものづくり」に関する調査を通して、技術者としての基本的倫理観について考えてもらいたいと思います。				
授業の進め方・方法	基本的に教室での講義ですが、「ものづくり」に関する調査のときは演習室で実施します。 【授業時間60時間】				
注意点	1. 成績評価とも関連しますが、講義で述べたことについて定期試験・中間試験で確認する方針なので、「講義をしっかり聴く」ことを心がけてほしいと思います。 2. 「ものづくり」に関する調査は、前期・後期にそれぞれ実施します(時期は適宜)。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「倫理」とは?	本来の「倫理」について、説明できる。	
		2週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	ギリシアの思想	自然哲学者・ソクラテスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		5週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		6週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		7週	ギリシアの思想	プラトン・アリストテレスらの倫理観について、その概要を説明できる。	
		8週	【前期中間試験】		
	2ndQ	9週	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		10週	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		11週	「ものづくり」に関する調査 1	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。	
		12週	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		13週	キリスト教	ユダヤ教と現代史との関係について、その概要を説明できる。	
		14週	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		15週	キリスト教	イエスの倫理観の概要について説明できる。	
		16週	【答案返却時間】		
後期	3rdQ	1週	イスラム教	イスラム文化と現代の関係について、その概要を説明できる。	
		2週	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		3週	イスラム教	イスラム教の倫理観について、その概要を説明できる。	
		4週	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。	

4thQ	5週	インドの思想	インド人の思想の特徴について、その概要を説明できる。
	6週	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。
	7週	インドの思想	ゴータマの思想について、その概要を説明できる。
	8週	【後期中間試験】	
	9週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	10週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	11週	「ものづくり」に関する調査2	調査を通して、技術者と倫理とについて、自分の考えをまとめて表現できる。
	12週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	13週	中国の思想	儒家の倫理観（孔子の思想を含む）について、その概要を説明できる。
	14週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	15週	中国の思想	道家の思想について、その概要を説明できる。
	16週	【答案返却期間】	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前12,前13,前14,前15,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前1,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後9,後10,後11
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	前9,前10,前11,後9,後10,後11
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前9,前10,前11,後9,後10,後11
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11

			技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	前9,前10,前11,後9,後10,後11
			技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11
			科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前9,前10,前11,後9,後10,後11
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前9,前10,前11,後9,後10,後11
	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15
様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。			3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15	
異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。			3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後12,後13,後14,後15	
それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。			3	前1,前9,前10,前11,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	

評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語 I	
科目基礎情報							
科目番号	1131G01		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4			
開設学科	一般教養		対象学年	1			
開設期	通年		週時間数	4			
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する						
担当教員	矢崎 満夫						
到達目標							
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語の基礎を学び、それを日常で使用し、学級になじむ							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル		
到達目標1	学生生活に必要な日本語の基礎を学び、それを日常で充分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語の基礎を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語の基礎を学び、それを日常である程度使用できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人を作ることである。この講義では、必要な日本語の基礎を学び、それを日常で使用方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		2週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		3週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		4週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		5週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		6週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		7週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		8週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
	2ndQ	9週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		10週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		11週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		12週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		13週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		14週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		15週	日本語の学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		16週					
後期	3rdQ	1週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		2週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		3週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		4週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		5週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		6週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		7週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		8週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
	4thQ	9週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		10週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		11週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		12週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		13週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		14週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		15週	日本語Iの学習		日本語の基礎・日常で使用方法を学ぶ		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計	

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	日本語会話 I	
科目基礎情報							
科目番号	1131G02		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4			
開設学科	一般教養		対象学年	1			
開設期	通年		週時間数	4			
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する						
担当教員	矢崎 満夫						
到達目標							
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で使用し、学級になじむ							
ルーブリック							
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル		
到達目標1	学生生活に必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で充分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常である程度使用できる		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人を作ることである。この講義では、必要な日本語会話の基礎を学び、それを日常で使用する方法を学ぶ。						
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		2週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		3週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		4週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		5週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		6週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		7週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		8週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
	2ndQ	9週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		10週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		11週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		12週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		13週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		14週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		15週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		16週					
後期	3rdQ	1週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		2週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		3週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		4週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		5週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		6週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		7週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		8週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
	4thQ	9週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		10週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		11週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		12週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		13週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		14週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		15週	日本語会話1の学習			日本語会話の基礎・日常で使用する方法を学ぶ	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計	

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語作文 I
科目基礎情報					
科目番号	1131G03		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する				
担当教員	矢崎 満夫				
到達目標					
阿南高専における学生生活にとって必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で使用し、他教科の学習に活用する					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		最低限の到達レベル
到達目標1	学生生活に必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で充分に使用できる		学生生活にとって必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で使用できる		学生生活にとって必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常である程度使用できる
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	阿南高専における学生生活にとって大切なことは、できるだけ早期に学級になじみ、友人と共に科目の学習を進めることである。この講義では、必要な日本語作文の基礎を学び、それを日常で使用方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	学生生活環境や日本語のレベルに合わせ、柔軟にすすめる。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		2週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		3週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		4週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		5週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		6週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		7週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		8週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
	2ndQ	9週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		10週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		11週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		12週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		13週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		14週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		15週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		16週			
後期	3rdQ	1週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		2週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		3週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		4週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		5週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		6週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		7週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		8週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
	4thQ	9週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		10週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		11週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		12週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		13週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		14週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		15週	日本語作文Iの学習	日本語作文の基礎・日常で使用方法を学ぶ	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他
					合計

総合評価割合	0	0	100	0	0	100
基礎的能力	0	0	100	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	美術・デザイン
科目基礎情報					
科目番号	1191201		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	美術1 (光村図書)				
担当教員	上月 佳代				
到達目標					
1. 観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。 2. 発想、構想、着想の表現ができる。 3. 材料、用具、技法の理解ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)
到達目標1	観察力、主題の表現、方法を工夫し、独自の世界観を作り出すことができる。		観察力、主題の表現、方法をよく工夫することができる。		観察力、主題の表現、方法を工夫することができる。
到達目標2	発想、構想、着想の表現ができ、独自の世界観を作り出すことができる。		発想、構想、着想の表現がよくできる。		発想、構想、着想の表現ができる。
到達目標3	材料、用具、技法の理解ができ、的確に扱うことができる。		材料、用具、技法の理解がよくできる。		材料、用具、技法の理解ができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	美術・デザインの専門分野で、創造活動を通して、人間・社会・自然で美的体験を豊かにし、美意識を深め、感性やアイデアを表現する。また、情報社会の中で、生活や文化・環境を思考しながら、工学デザインへの一歩として理解し、個性ある能力を高める。				
授業の進め方・方法	【授業時間60時間】				
注意点	美術は自己をしっかり見つめ、自分を表現する。身近な生活の中造形に興味を持ち、楽しむ。与えられた課題は最後まで取り組み、根気や忍耐力を発揮すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1 美術・デザインの概念	美術・デザインの意識を理解して美術に取り組む心構えができる。	
		2週	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性)を理解することができる。	
		3週	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性)を理解することができる。	
		4週	2 色彩 (色相環・三属性)	色彩 (色相環・三属性)を理解することができる。	
		5週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		6週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		7週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		8週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
	2ndQ	9週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		10週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		11週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		12週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		13週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		14週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		15週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
		16週	3 平面構成	バランスの取れた平面構成をし、調和のとれた色彩構成をすることができる。	
後期	3rdQ	1週	4 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	
		2週	4 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	
		3週	4 工業デザイン (立体)	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。	

4thQ	4週	4	工業デザイン（立体）	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。
	5週	4	工業デザイン（立体）	機能的な形と美しさの調和を考えて、造形し、着色することができる。
	6週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	7週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	8週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	9週	5	鉛筆によるデッサン	対象を観察して、それを素描で表現することができる。
	10週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	11週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	12週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	13週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	14週	6	静物画	静物を観察し、どう表現するかを考えて、画面構図・着色することができる。
	15週	7	美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。
	16週	7	美術・デザインのまとめ	美術・デザインのまとめとして、絵画などを鑑賞して作者の意図が理解できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	70	0	30	100
基礎的能力	0	0	70	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	1112101		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	なし/なし				
担当教員	新井 修,中島 一				
到達目標					
1.互いに協力し合い、主体的に練習やゲームの方法を工夫して運動を実践できる。 2.自己の能力に応じて、運動の技能や体力を身につけることができる。 3.安全に留意して運動や活動ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベル(優)	標準的な到達レベル(良)	最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	自己及び、仲間の取るべき行動を適切に判断し、主体的に練習やゲームを工夫し、活動を円滑に実践できる。	自己の取るべき行動を判断し、他人と互いに協力しながら準備や活動に参加できる。	周囲に合わせて、準備や活動をすることができる。		
到達目標2	自己の能力を理解し、適切なプログラムを作成して運動の技能や体力を身につけることができる。	教員が指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につけることができる。	教員の指示したプログラムに従い、運動の技能や体力を身につける取り組みができる。		
到達目標3	活動中、自己のみならず仲間も安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取る事ができる。	活動中、自己の安全に留意し、必要に応じて危険を回避する行動を取ることができる。	教員の指示により、安全に留意することができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	運動を行うことにより、運動することの楽しさや喜びの実感、運動に必要な技能の習得及び体力の向上を図る。あわせて自ら意欲的に運動に取り組む姿勢や、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。特に本授業では、生涯スポーツの観点から、自己の能力や興味関心に応じて種目を選択させ、運動を安全かつ楽しみながら実践できるよう、工夫・協力しながら学習することに重点を置く。				
授業の進め方・方法	各種目のルールを説明、基本的な技能の習得、ゲームの実践と段階的に競技を行なう。 授業時間 60 時間				
注意点	普段から健康管理を心がけ、風邪などにより授業を見学・欠席することの無いよう気をつけてください。 学校指定の体操服で活動してください。 天候等、やむを得ない事情により、実施種目は変更されることがあります。 前期の体育大会は授業時数に含まれますので、欠席しないようにして下さい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	バドミントン	バドミンントンのルールを理解し説明できる。	
		2週	バドミントン	サーブ、ストローク、スマッシュ等の個人技能を習得する。	
		3週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		4週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		5週	バドミントン	互いに協力し、ゲームを実践できる。	
		6週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		7週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		8週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
	2ndQ	9週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		10週	ニュースポーツ	主体的に参加し、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		13週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		14週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		15週	体育大会	参加する種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。	
		16週			
後期	3rdQ	1週	ソフトボール	ソフトボールのルールを理解し説明できる。	
		2週	ソフトボール	打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	
		3週	ソフトボール	打撃、守備、走塁等の個人技能を習得する。	

4thQ	4週	ソフトボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	5週	ソフトボール	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	6週	サッカー・フットサル	サッカー・フットサルのルールを理解し説明できる。
	7週	サッカー・フットサル	ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。
	8週	サッカー・フットサル	ドリブル、パス、シュート等の個人技能を習得する。
	9週	サッカー・フットサル	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	10週	サッカー・フットサル	互いに協力し、ゲームを実践できる。
	11週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	12週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	13週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	14週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	15週	選択制体育	選択した種目で、仲間と協力してゲームを実践できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	100	100

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	基礎数学2	
科目基礎情報						
科目番号	1112A01		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	一般教養		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:4 後期:4		
教科書/教材	「数学Ⅱ」(数研出版) / 「新課程 チャート式 基礎と演習 数学Ⅱ+B, III」(数研出版) / 「新課程 練習ドリルⅡ, III 標準編」(数研出版) / 新版微分積分I, II 改訂版(実教出版) / 新版微分積分I, II演習 改訂版(実教出版)					
担当教員	田上 隆徳, 榊田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也					
到達目標						
1. 整式の四則演算ができる。 2. 複素数の概念を理解し、その計算ができる。 3. 2次方程式や高次方程式を解くことができる。 4. 微分を使って接線の方程式や増減表を求めることができる。また、増減表からグラフ描画と極値を求めることができる。 5. 不定積分と定積分の計算ができる。また定積分を使って図形の面積を求めることができる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安			
評価項目1	3次式以上の複雑な整式の四則演算ができる。	整式の四則演算ができる。	簡単な整式の四則演算ができる。			
評価項目2	複素数の複雑な計算ができる。	複素数の概念を理解し、その計算ができる。	簡単な複素数の計算ができる			
評価項目3	複雑な2次方程式や高次方程式を解くことができる。	2次方程式や高次方程式を解くことができる。	2次方程式や簡単な高次方程式を解くことができる。			
評価項目4	複雑な合成関数の極限や微分を計算することができる。	極限と微分の計算が確実にできる。	簡単な極限と微分の計算ができる。			
評価項目5	複雑な置換積分や部分積分を用いた計算ができる。	置換積分や部分積分を用いた基本的な計算ができる。	簡単な積分の計算ができる。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、高専数学での最重要事項である各種関数の取り扱い方、方程式の解き方、微分と積分の計算とその応用方法について学習する。					
授業の進め方・方法	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。 【授業時間 1 2 0 時間】					
注意点	1. 授業に集中して効率的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験の勉強同様に、実力試験や小テストの勉強、宿題にも全力で取り組むこと。 3. 宿題などの課題は、提出期限を厳守すること。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	3次式の展開と因数分解	3次の展開公式を使って、式を展開することができる。また、3次式の因数分解の公式を使って因数分解できる。		
		2週	二項定理とパスカルの三角形	二項定理を使って展開できる。また、パスカルの三角形を書くことができ、対応する多項式の係数を求めることができる。		
		3週	整式の割り算と分数式の四則演算	整式の割り算と、分数式の四則演算ができる。		
		4週	恒等式	恒等式を理解できる。また、恒等式の両辺を比較して係数を求めることができる。		
		5週	複素数とその基本性質およびその四則演算	複素数を理解できる。また、その四則演算ができる。		
		6週	2次方程式の解の公式と判別式	2次方程式の解の公式を使って、虚数解を求めることができる。また、判別式を計算し、2次方程式の解の種類を判別することができる。		
		7週	剰余の定理と因数定理	剰余の定理を使って、整式を整式で割ったときの余りを求めることができる。また、因数定理を使って因数分解することができる。		
		8週	高次方程式の因数分解	因数定理を使って高次方程式を因数分解し、方程式の解を求めることができる。		
	2ndQ	9週	前期中間試験			
		10週	関数の極限と微分係数	関数の極限を求めることができる。また平均変化率の極限として微分係数を求めることができる。		
		11週	簡単な関数の微分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の微分ができる。またそれらのグラフ上の接線を求めることができる。		
		12週	積の微分、商の微分	関数fと関数gの積fg、商f/gの微分ができる。		
		13週	合成関数の微分	関数 f と関数gの合成関数である関数f○gの微分ができる。		
		14週	三角関数の微分	三角関数の微分ができる。積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な三角関数の微分ができる。		

後期		15週	対数関数・指数関数の微分	対数関数・指数関数の基本的な計算ができる。積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な対数関数・指数関数の微分ができる。
		16週	期末試験返却	
	3rdQ	1週	逆三角関数の微分	逆三角関数の微分ができる。積、商、合成関数に関する微分公式を使って、やや複雑な逆三角関数の微分ができる。
		2週	分数関数の極限	収束、発散、無限大の概念を理解できる。また、分数式の極限を求めることができる。
		3週	三角関数・対数関数・指数関数の極限	三角関数・対数関数・指数関数を含む極限を計算することができる。
		4週	不定積分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の不定積分ができる。
		5週	定積分	1次関数や2次関数、そして一般の多項式関数の定積分ができる。
		6週	定積分と図形の面積	定積分を使って、図形の面積や2つの曲線の間の面積を求めることができる。
		7週	三角関数の不定積分	三角関数の不定積分ができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	指数関数の不定積分	指数関数の不定積分ができる。
		10週	置換積分法	置換積分を用いた不定積分ができる。
		11週	部分積分法	部分積分を用いた不定積分ができる。
		12週	いろいろな関数の不定積分	分数関数や三角関数の公式を用いた不定積分ができる。
		13週	定積分	多項式関数や三角関数、指数関数の定積分ができる。
		14週	定積分の置換積分法	置換積分を用いた定積分ができる。
15週		定積分の部分積分法	部分積分を用いた定積分ができる。	
16週		期末試験返却		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	数学	数学	整式の加減乗除の計算や、式の展開ができる。	3	前3
			因数定理等を利用して、4次までの簡単な整式の因数分解ができる。	3	前1,前7
			分数式の加減乗除の計算ができる。	3	前3
			複素数の相等を理解し、その加減乗除の計算ができる。	3	前5
			解の公式等を利用して、2次方程式を解くことができる。	3	前6
			因数定理等を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。	3	前8
			無理方程式・分数方程式を解くことができる。	3	前8
			恒等式と方程式の違いを区別できる。	3	前4
			分数関数や無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。	3	前12
			放物線、楕円、双曲線の図形的な性質の違いを区別できる。	3	
			不定形を含むいろいろな数列の極限を求めることができる。	3	後9,後10
			無限等比級数等の簡単な級数の収束・発散を調べ、その和を求めることができる。	3	後9,後10
			簡単な場合について、関数の極限を求めることができる。	3	前10,後2,後3
			微分係数の意味や、導関数の定義を理解し、導関数を求めることができる。	3	前11
			積・商の導関数の公式を用いて、導関数を求めることができる。	3	前12,後2,後7
			合成関数の導関数を求めることができる。	3	前13,後7
			三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。	3	前14,前15,後6,後7
			逆三角関数を理解し、逆三角関数の導関数を求めることができる。	3	後1
			関数の増減表を書いて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。	3	前12
			極値を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。	3	前12
簡単な場合について、関数の接線の方程式を求めることができる。	3	前12			
2次の導関数を利用して、グラフの凹凸を調べることができる。	3	前12			
不定積分の定義を理解し、簡単な不定積分を求めることができる。	3	後4,後12			
置換積分および部分積分を用いて、不定積分や定積分を求めることができる。	3	後10,後11,後14,後15			
定積分の定義と微積分の基本定理を理解し、簡単な定積分を求めることができる。	3	後5,後13			
分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分を求めることができる。	3	後7,後9,後12,後13			

			簡単な場合について、曲線で囲まれた図形の面積を定積分で求めることができる。	3	後6
--	--	--	---------------------------------------	---	----

評価割合						
	定期試験	小テスト	課題	発表	その他	合計
総合評価割合	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	数学B
科目基礎情報					
科目番号	1112A11		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	「数学B」服部哲弥ほか著 数研出版 / 「数学C」坪井俊ほか著 数研出版 / 「新課程 練習ドリル 数学B 標準編」数研出版 / 「新課程 練習ドリル 数学C〔ベクトル〕 標準編」数研出版				
担当教員	田上 隆徳, 櫛田 雅弘, 山田 耕太郎, 西森 康人, 浮田 卓也				
到達目標					
1.等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、 Σ の計算ができる。 2.ベクトルの基本的な計算ができる。 3.平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。 4.平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。 5.平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル(可)		
到達目標1	等差・等比以外の数列の一般項や和を求めることができる。	等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる、 Σ の計算ができる。	簡単な等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができ、簡単な Σ の計算ができる。		
到達目標2	やや複雑なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	簡単なベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。		
到達目標3	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、複雑な計算ができる。	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。	平面および空間ベクトルの成分表示ができ、簡単な計算ができる。		
到達目標4	平面および空間ベクトルの内積を求めることができ、内積を用いてベクトルの大きさが計算できる。	平面および空間ベクトルの内積を求めることができ、内積を用いてベクトルのなす角を求めることができる。	平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。		
到達目標5	複雑な条件で平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。	平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を求めることができる。	平面および空間内の直線・平面・円・球の方程式を簡単な条件で求めることができる。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	数学は工業高専において根幹となる科目である。本授業では、平面および空間のベクトルの概念を学習し、基本的なベクトルの計算方法を習得する。数列では規則に従って並ぶ数やその和、および漸化式概念を学習する。				
授業の進め方・方法	【授業時間60時間】				
注意点	1. 授業に集中し、効果的に学習する方法を確立すること。予習復習は必須である。 2. 定期試験はもちろん重要であるが、平常の小テスト、提出物等での努力を怠らないこと。 3. 課題等提出物の提出期限は厳守すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	数列と一般項	数列の用語、表記について理解し、数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。	
		2週	等差数列	等差数列の公差、一般項などを理解し、条件から数列の一般項を決定できる。	
		3週	等差数列の和	等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和を求めることができる。	
		4週	等比数列	等比数列の公比、一般項などを理解し、条件から数列の一般項を決定できる。	
		5週	等比数列の和	等比数列の和の公式を適切に利用して、等比数列の和を求めることができる。	
		6週	和の記号 Σ	記号 Σ の意味と性質を理解し、数列の和を求めることができる。	
		7週	総和の計算	第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和を求めることができる。	
		8週	漸化式	漸化式の意味を理解し、具体的に項を求めることができる。	
	2ndQ	9週	前期中間試験		
		10週	平面上のベクトル	ベクトルの概念を理解するとともに、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解する。	
		11週	ベクトルの演算	平面上の矢線ベクトルの和・差・定数倍の計算ができる。	
		12週	ベクトルの平行とベクトルの分解	ベクトルを同じ向きの単位ベクトルを使って表現できる。有向線分で表示されたベクトルを、2つのベクトルの和や差で表現できる。	
		13週	ベクトルの成分	平面上のベクトルが2つの実数の組として表されることを理解し、大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	
		14週	ベクトルの内積(1)	ベクトルの内積を求めることができ、ベクトルのなす角を求めることができる。	

		15週	演習	
		16週	前期期末試験返却	
後期	3rdQ	1週	ベクトルの内積(2)	ベクトルの大きさを内積に置き換えて扱うことができる。
		2週	位置ベクトル	点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。
		3週	ベクトルと平面図形	線分の内分点・外分点を位置ベクトルを用いて表すことができることができる。
		4週	平面上の直線(1)	平面上の直線の方程式を求めることができる。
		5週	平面上の直線(2)	通る1点と法線ベクトルから直線の方程式を求めることができる。
		6週	座標による直線の方程式	公式を利用して、直線の方程式を求めることができる。
		7週	円	円の方程式を求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	空間の座標	座標空間を理解し、点の座標、2点間の距離を求めることができる。
		10週	空間のベクトル	成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。
		11週	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの内積を求めることができ、平行・垂直条件を利用することができる。
		12週	ベクトルと空間図形	位置ベクトルの意味を理解し、線分の内分点・外分点を求めることができる。
		13週	空間内の直線	空間内の直線の方程式を求めることができる。
		14週	空間内の平面	空間内の平面の方程式を求めることができる。
		15週	球	球の方程式を求めることができる。
		16週	学年末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	数学	2点間の距離を求めることができる。	3	後3,後9
				内分点の座標を求めることができる。	3	後3,後12
				2つの直線の平行・垂直条件を利用して、直線の方程式を求めることができる。	3	後4,後5,後13
				簡単な場合について、円の方程式を求めることができる。	3	後7
				等差数列・等比数列の一般項やその和を求めることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5
				総和記号を用いた簡単な数列の和を求めることができる。	3	前6,前7
				ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。	3	前10,前11,前12,後10
				平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して簡単な計算ができる。	3	前13,後10
				平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。	3	前14,前15,後11
				問題を解くために、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。	3	後4,後5,後11,後13,後14
空間内の直線・平面・球の方程式を求めることができる(必要に応じてベクトル方程式も扱う)。	3	後13,後14,後15				

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	物理 2
科目基礎情報					
科目番号	1112B02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	総合物理 1, 2 (数研出版), リードα (数研出版), 物理重要問題集 (数研出版)				
担当教員	園田 昭彦				
到達目標					
物理学を通じて自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、幅広い自然諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身に付ける。さらに、物理学は工学を学ぶための極めて重要な基礎であり、工学の数多くの分野において、科学技術の発展に欠かせない知識であることを認識する。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベル(可)
運動量の保存	運動量の保存について説明でき、その諸問題について解決する能力がある。		運動量の保存を用いて、問題を解くことができる。		運動量などの計算ができる。
円運動	円運動と単振動の関係について説明できる。また、これらを利用して、問題を解決できる能力がある。		円運動を利用して、問題を解くことができる。		円運動についての基本問題の計算ができる。
万有引力の法則	万有引力の法則を説明でき、応用問題を取り組むことができる。		万有引力の法則に関する例題や類題を解くことができる。		万有引力の法則に関する基本問題の計算ができる。
熱量の保存	熱量の保存を用いて、物体の比熱を求めることができ、熱と仕事の関係を説明できる能力がある。		熱量の保存を用いて、物体の比熱を求めることができる。		熱量の保存則を用いて、基本問題の計算ができる。
熱力学第一法則	熱力学第一法則について説明でき、気体が状態変化したときの内部エネルギーの変化、気体がされた仕事、気体に与えた熱量の関係が説明できる察力がある。		熱力学第一法則に関する諸問題を解くことができる。		熱力学第一法則に関する基本問題の計算ができる。
波の性質	波の波長や振動数などの基本量を用いて、波を記述でき、波の基本原則、諸現象についての説明できる能力がある。		波の波長や振動数などの基本量の計算ができ、波の基本原則、諸現象についての標準問題を解くことができる。		波の波長や振動数などの基本量の計算ができる。
音	発音体の振動や共振・共鳴、及び音のドップラー効果について説明でき、これらの諸問題を解決できる能力がある。		発音体の振動や共振・共鳴、及び音のドップラー効果についての標準問題を解くことができる。		発音体の振動や共振・共鳴、及び音のドップラー効果についての基本問題を解くことができる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物理学は自然現象の探求を目的として発展した学問であるが、その成果は基礎科学だけでなく、工学分野の基礎としても根付いている。本講義では、物理学の学習を通じて自然現象を系統的・論理的に考えていく力を養い、幅広い自然現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につける。2年生では、力学、熱力学、波動を中心に学習する。				
授業の進め方・方法	講義では理解できないことや疑問に思ったことなどは積極的に質問すること。また、友達や先輩と積極的に議論を行うこと。予習→講義→復習、このサイクルを大切に、自分の理解度が定量的に分かるようにしておくこと。本講義では座学だけでなく、実験も行う。 【授業時間60時間】				
注意点	本科目は数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）を構成し、プログラムの修了には本科目の修得が必要である。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	運動量と力積	運動量と力積をそれぞれ計算でき、それらの間の関係を使って問題を解くことができる。	
		2週	運動量保存則 (1)	運動量保存則を使って直線上の衝突の問題を解くことができる。	
		3週	運動量保存則 (2)	運動量保存則を使って平面上の衝突の問題を解くことができる。	
		4週	反発係数	反発係数を計算できる。	
		5週	円運動	角速度を使って変位や速度等を計算できる。	
		6週	円運動の加速度	円運動における加速度や向心力を計算できる。	
		7週	慣性力	慣性力を求めることができ、遠心力を計算できる。	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	単振動	単振動と円運動の式の間の関係を理解できる。	
		10週	単振り子 (実験)	ボルダの振り子を使って重力加速度の大きさを測定する。	
		11週	ケプラーの法則	ケプラーの法則について理解している。	
		12週	万有引力の法則	万有引力の法則について理解している。	
		13週	熱量の保存 (実験)	比熱実験	

後期		14週	気体の法則	気体の法則を用いて気体の状態を計算できる。
		15週	熱と仕事	熱力学第一法則について理解している。
		16週	前期末試験	
	3rdQ	1週	気体分子の運動	気体分子の運動によって温度や圧力などの巨視的量を説明できる。
		2週	気体の状態変化	熱力学第一法則により気体の状態変化を説明でき、状態量の計算ができる。
		3週	熱機関と効率	熱機関について理解し、熱効率に関する計算ができる。
		4週	モンテカルロ法 (実験)	確率と面積の関係から円周率を求めることができる。
		5週	波の性質	波の波長、周期、振動数、速さについて説明でき、それらの間の関係を答えることができる。
		6週	横波・縦波	横波と縦波の違いについて説明できる。
		7週	正弦波	正弦波の式を扱うことができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	波の重ね合わせの原理	波の重ね合わせの原理と波の独立性を理解できる。
		10週	波の反射と波の干渉	自由端と固定端について説明でき、波の干渉に関する基本問題を解くことができる。
		11週	波の反射、屈折、回折	ホイヘンスの原理を理解し、波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。
		12週	音の性質	音の性質について説明できる。
		13週	発音体	弦や気柱の固有振動数を求めることができる。
14週		ドップラー効果 (1)	ドップラー効果による振動数変化を計算できる。	
15週		ドップラー効果 (2)	ドップラー効果による振動数変化を計算できる。	
16週		期末試験返却		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	
				平均の速度、平均の加速度を計算することができる。	3	
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	
				物体に作用する力を図示することができる。	3	
				力の合成と分解をすることができる。	3	
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	
				質点にはたらく力のつりあいの問題を解くことができる。	3	
				慣性の法則について説明できる。	3	
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	
				運動の法則について説明できる。	3	
				静止摩擦力がはたらくている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	
万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3					
万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3					

		熱	原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について説明できる。	3		
			時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを説明できる。	3		
			物体の熱容量と比熱を用いた計算ができる。	3		
			熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。	3		
			動摩擦力がする仕事は、一般に熱となることを説明できる。	3		
			ボイル・シャルルの法則や理想気体の状態方程式を用いて、気体の圧力、温度、体積に関する計算ができる。	3		
			気体の内部エネルギーについて説明できる。	3		
			熱力学第一法則と定積変化・定圧変化・等温変化・断熱変化について説明できる。	3		
			エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを具体例を挙げて説明できる。	3		
			不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。	3		
			熱機関の熱効率に関する計算ができる。	3		
			波動	波の振幅、波長、周期、振動数、速さについて説明できる。	3	
		横波と縦波の違いについて説明できる。		3		
		波の重ね合わせの原理について説明できる。		3		
		波の独立性について説明できる。		3		
		2つの波が干渉するとき、互いに強めあう条件と弱めあう条件について計算できる。		3		
		定常波の特徴(節、腹の振動のようすなど)を説明できる。		3		
		ホイヘンスの原理について説明できる。		3		
		波の反射の法則、屈折の法則、および回折について説明できる。		3		
		弦の長さや弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。		3		
		気柱の長さや音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる(開口端補正は考えない)。		3		
		共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。		3		
		一直線上の運動において、ドップラー効果による音の振動数変化を求めることができる。		3		
		物理実験	物理実験	測定機器などの取り扱い方を理解し、基本的な操作を行うことができる。	3	
				安全を確保して、実験を行うことができる。	3	
				実験報告書を決められた形式で作成できる。	3	
				有効数字を考慮して、データを集計することができる。	3	
力学に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3					
熱に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3					
化学(一般)	化学(一般)	波に関する分野に関する実験に基づき、代表的な物理現象を説明できる。	3			
		ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。	3			
			気体の状態方程式を説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。	3		

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	50	20	20	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	化学 2
科目基礎情報					
科目番号	1112D02		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	高等学校 化学基礎 (第一学習社)、高等学校 化学 (第一学習社)、フォローアップドリル 化学・化学基礎 (数研出版)、化学図録 (数研出版)				
担当教員	山田 洋平				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 構成原子間の電子移動により酸化還元反応が進むことを理解し、酸化還元反応の量的な計算ができる。 2. 身近な電池の仕組みを理解し、各電極上で進行する反応を記述できる。 3. 電気分解により各電極上で進行する反応を記述できる。 4. 与えられた条件から熱化学方程式を立式できる。反応熱の計算ができる。 5. 反応速度の定義を学び、反応速度式で記述することができる。 6. 基本的な炭化水素を記述、分類できる。官能基から有機化合物の性質を類推できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安
到達目標1	酸化数を正確に決定できる。酸化反応、還元反応を別々に立式し、それらを足し合わせることができる。様々な酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化数を決定できる。酸化反応、還元反応を別々に立式し、それらを足し合わせることができる。基礎的な酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算ができる。		酸化数がおおよそ決定できる。半反応式が与えられれば、全反応式を書ける。酸化剤・還元剤を用いた酸化還元反応の量的な計算が少しはできる。
到達目標2	様々な電池 (ボルタ・ダニエル・鉛蓄電池・燃料電池) の仕組みをすべてそらんじて説明できる。		ボルタ・ダニエル・鉛蓄電池・燃料電池のうち2・3種の電池の仕組みをそらんじて説明できる。		単元の復習をすれば、ボルタ・ダニエル・鉛蓄電池・燃料電池のうち2・3種の電池の仕組みをそらんじて説明できる。
到達目標3	電気分解により起こる反応を記述できる。また、反応の量的な計算が正確にできる。		電気分解により起こる反応を記述できる。電気分解における量的な計算が7割程度できる。		選択肢を与えられれば、電気分解により起こる反応をおおよそ正しく選択できる。電気分解における量的な計算が5割程度できる。
到達目標4	熱化学方程式を立式できる。エンタルピー図と連立方程式の両解法を用いて反応熱の計算が正確にできる。		熱化学方程式を立式できる。エンタルピー図と連立方程式の両解法を使い分けて、反応熱の計算を実行できる。		吸熱、発熱反応を区別できる。基礎レベルであれば、エンタルピー図から情報を読み取れる。反応熱の計算ができる。
到達目標5	反応速度の測定結果から反応速度式が記述できる。反応速度と濃度、温度、触媒の関係を説明することができる。アレニウス式を用いて、反応速度定数と活性化エネルギーの関係を説明することができる。		反応速度の測定結果から反応速度式が記述できる。反応速度と濃度、温度、触媒の関係を説明することができる。		活性化エネルギーを含む反応経路の図を見て、反応の進行状況に関する情報を読み取れる
到達目標6	アルカン・アルケン・アルキン・シクロアルカンなど炭化水素の分類・命名ができる。構造異性体・立体異性体の概念を説明できる (分子模型を組み立てられる)。飽和/不飽和炭化水素を用いた反応について、構造式を書ける。官能基を含む有機化合物 (アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸) について、構造式を書ける。		単元を軽く復習すれば、アルカン・アルケン・アルキン・シクロアルカンなど炭化水素の分類・命名ができる。構造異性体・立体異性体の概念を説明できる (分子模型を組み立てられる)。飽和/不飽和炭化水素を用いた反応について、構造式を書ける。官能基を含む有機化合物 (アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸) について、構造式を書ける。		単元を復習すれば、基本的な炭化水素の命名、記述であればできる。構造式を見て一部の官能基を識別できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	講義は理科総合 (1年) での学習内容をふまえて進めていく。理解が十分でない内容は必ず復習をして、授業には集中して取り組むこと。本科目は数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシー) を構成し、プログラムの修了には本科目の修得が必要である。				
授業の進め方・方法	講義と演習を中心に進めていく。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	有機化合物1		基本的な分子の電子式、構造式の記述ができる。元素のもつ結合の手の数を説明できる。
		2週	有機化合物2		原子模型を用いてアルカン分子を作成し、有機化合物の種の多さを体感する。飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造を説明できる。
		3週	有機化合物3		飽和炭化水素・不飽和炭化水素の名称や構造、性質を説明できる。代表的な構造式を見て、官能基を見つけることができる。
		4週	有機化合物4		アルカンの性質・製法・反応を記述することができる。

2ndQ	5週	有機化合物5	アルケンの性質・製法・反応を記述することができる。		
	6週	有機化合物6	アルキン、官能基を持つ物質の合成法や反応について記述することができる。		
	7週	有機化合物7/酸化還元反応1	官能基を持つ物質の合成法や反応について記述することができる。元素分析の仕組みを説明できる。酸化還元反応を水素原子の移動・酸素原子の移動・電子の移動の観点から説明できる。		
	8週	前期中間試験	中間試験		
	9週	酸化還元反応2	酸化数の変化から、酸化された物質、還元された物質を決定できる。酸化剤と還元剤の半反応式をつくることができる。また、それらを足し合わせることで全反応式を立てることができる。		
	10週	酸化還元反応3	酸化剤・還元剤の強さに関する概念を説明できる。酸化還元滴定を用いた量的関係について計算できる。		
	11週	酸化還元反応4	金属のイオン化傾向と金属の反応性について関連付けて説明できる。この考え方をういて起こり得る酸化還元反応を推測することができる。		
	12週	酸化還元反応5	酸化還元反応に関するまとめ。総復習。		
	13週	電池1	電池の基本的な原理を説明できる。ダニエル電池・ボルタ電池の原理を説明できる。		
	14週	電池2	鉛蓄電池・燃料電池の原理を説明できる。		
	15週	電池3・電気分解1	電池分野のまとめ。電気分解の原理を説明できる。		
	16週	前期末試験			
	後期	3rdQ	1週	電気分解2	反応系を見て、電極材料と水溶液中に存在する分子やイオンを列挙できる。演習問題を解くことができる。
			2週	電気分解3	電極材料と水溶液の情報から、電極上で起こる反応を記述できる。
			3週	電気分解4	電気分解の応用例（NaCl水溶液の電気分解・電解精錬）を説明できる。
			4週	電気分解5	電気分解における量的関係の計算ができる。
5週			熱化学方程式1	熱化学方程式の表記ルールを説明できる。基本的な熱化学方程式を書くことができる。	
6週			熱化学方程式2	基本的な熱化学方程式を書くことができる。	
7週			熱化学方程式3	ヘスの法則を利用して、既知の ΔH から未知の ΔH を求めることができる。	
8週			後期中間試験		
4thQ		9週	熱化学方程式4	反応エンタルピー、結合エネルギー、ヘスの法則を駆使して、エンタルピー変化に関する問題を解くことができる。	
		10週	化学反応の速さ1	反応速度に影響を与える因子を説明できる。反応速度の定義について説明できる。	
		11週	化学反応の速さ2	過酸化水素を用いた反応速度実験について、原理を理解し、測定結果をグラフ化したり、反応の速さに関する情報を求めることができる。	
		12週	化学反応の速さ3	反応速度式を立てることができる。	
		13週	化学反応の速さ4	反応の速さに関するまとめ	
		14週	化学平衡1	化学平衡の概念を説明できる。濃度・圧力・温度変化と平衡移動の関係性について説明できる。	
		15週	化学平衡2	ハーバーボッシュ法について、ルシャトリエの原理を用いて説明できる。	
		16週	学年末試験		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	代表的な金属やプラスチックなど有機材料について、その性質、用途、また、その再利用など生活とのかかわりについて説明できる。	3	
			洗剤や食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて説明できる。	3		
			酸化還元反応について説明できる。	3		
			イオン化傾向について説明できる。	3		
			金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	3		
			ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3		
			鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3		
			一次電池の種類を説明できる。	3		
			二次電池の種類を説明できる。	3		
			電気分解反応を説明できる。	3		
			電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3		
ファラデーの法則による計算ができる。	3					

		化学実験	化学実験	実験の基礎知識(安全防具の使用法、薬品、火気の取り扱い、整理整頓)を持っている。	3	
		化学実験	化学実験	事故への対処の方法(薬品の付着、引火、火傷、切り傷)を理解し、対応ができる。	3	
		化学実験	化学実験	試薬の調製ができる。	3	
		化学実験	化学実験	代表的な無機化学反応により沈殿を作り、ろ過ができる。	3	

評価割合

	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	日本語総合
科目基礎情報					
科目番号	1112G01		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	高専日本語アビリティⅡ (阿南高専) / 常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				
担当教員	錦織 浩文, 井手 久美子				
到達目標					
1. 文学的な文章を表現に即して読み味わい、説明できる。 2. 情報の収集・分析・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。 3. 論理的な文章について、その論拠の妥当性を判断し、自分の意見を述べるができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安
到達目標1	文学的な文章を表現に即して読み味わい、自分の考えを加えて適切に説明できる。		文学的な文章を表現に即して読み味わい、適切に説明できる。		文学的な文章を表現に即して読み味わい、説明できる。
到達目標2	論理的な文章について、その論拠の妥当性を的確に判断し、自分の意見を訴求力をもって述べるができる。		論理的な文章について、その論拠の妥当性を的確に判断し、自分の意見を述べるができる。		論理的な文章について、その論拠の妥当性を判断し、自分の意見を述べるができる。
到達目標3	情報の収集・分析・整理を適切に行い、論理的な構成、適切な表現スキルにより口頭発表できる。		情報の収集・分析・整理を適切に行い、論理的な構成により口頭発表できる。		情報の収集・分析・整理を行い、構成を工夫して口頭発表できる。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語の表現に関する基礎知識・技術を理解し、論理的なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業は、文章表現および口頭表現に関する学習・練習を基本とする。また、文学的作品の鑑賞により社会を見つめる視野拡大の起点を獲得し、理解や表現の力を培つ。 【学習時間60時間】				
注意点	毎時間の冒頭に「読書の時間」を設けるので、各自で本を用意すること (漫画、雑誌、テキストを除く)。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、文末表現	シラバスにより到達目標、評価方法・割合、達成基準等を理解する。 文末表現を理解して説明し、使用できる。	
		2週	文書作成 (履歴書等) ①	既習事項を活用し、適切な言葉遣い、構成法を用いて基礎的な文書を作成することができる。	
		3週	スピーチ構成シート①	三段構成 (第1段の状況説明と設疑・反語法)、接続の言葉を使用してスピーチ構成シートを執筆できる。	
		4週	スピーチ①	スピーチ構成シートをふまえ、非言語コミュニケーションを意識してスピーチできる。	
		5週	日本語の表現①	尊敬語、謙譲語、丁寧語を用いて、適切な敬語表現ができる。	
		6週	日本語の表現②	ことわざ・慣用句などの表現の内容や文化的背景を理解し、適切に使用できる。	
		7週	日本語の表現③	詩鑑賞スキルを使用して詩を鑑賞し、説明できる。	
		8週	日本語の表現④	広く社会生活で使われている日常的な日本語表現の特徴を理解し、説明できる。	
	2ndQ	9週	日本語の表現⑤	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	
		10週	日本語の表現⑥	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	
		11週	日本語の表現⑦	文学的な文章に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	
		12週	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの特徴を理解し、適切に使用できる。	
		13週	文書作成 (履歴書等) ②	既習事項を活用し、適切な言葉遣い、構成法を用いて発展的な文書を作成することができる。	
		14週	スピーチ構成シート②	既習事項を活用し、スピーチ構成シートを執筆できる。	
		15週	スピーチ②	スピーチ構成シートをふまえ、非言語コミュニケーションを使用してスピーチできる。	
		16週	学習のまとめ	学習のまとめ	
後期	3rdQ	1週	評論読解① 意見文①	要約の方法を理解し、評論を読解できる。 その読解にもとづき、意見を執筆できる。	
		2週	評論読解② 意見文②	要約の方法を理解し、評論を読解できる。 その読解にもとづき、意見を執筆できる。	
		3週	情報の収集と分類①	情報を適切に収集し、目的に応じて分類できる。	

		4週	情報の収集と分類②	情報を適切に収集し、目的に応じて分類できる。	
		5週	小論文①	テーマに沿って小論文を作成できる。	
		6週	小論文②	テーマに沿って小論文を作成できる。	
		7週	小論文③	テーマに沿って小論文を作成できる。	
		8週	中間試験	学習のまとめ	
		4thQ	9週	漢字とかな	漢字とかなの成り立ちについて理解し説明できる。
			10週	単語と品詞分類	単語と品詞分類について理解し説明できる。
			11週	慣用句とことわざ	代表的な慣用句・ことわざの意味内容を理解し説明できる。
	12週		故事成語	代表的な故事成語の意味内容を理解し説明できる。	
	13週		四字熟語	代表的な四字熟語の意味内容を理解し説明できる。	
	14週		当用漢字と常用漢字	当用漢字と常用漢字について理解し説明できる。	
	15週		学習の振り返り	学習のまとめ	
	16週		答案返却	学習のまとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	後1,後2,後4,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	後1,後2,後4
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	前7,前9,前10,前11
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	前2,前8,前13,前14,後5,後6,後7,後9,後13,後14
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	前3,前4,前8,前9,前10,前11,前13,前14,後5,後6,後7
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	後5,後6,後7
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	後3,後4,後5,後6,後7
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	前3,前4,前6,前13,前14,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	前2,前3,前4,前14,前15,後3,後4,後5,後6,後7
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	前15,後5,後6,後7
課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	後4,後5,後6,後7				
相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	後4,後5,後6,後7				
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	前5,前6,後4,後5,後6,後7				

評価割合

	中間・期末試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	50	0	25	25	0	100
基礎的能力	50	0	25	25	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英語B
科目基礎情報					
科目番号	1112H11		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	ブレイクスルー総合英語[基本例文ノート付], ブレイクスルー英文法36章と解答, 同ワークブック (美誠社) HyperListening 4th Edition Intermediate, 同ディクテーションノート, 同解答・解説書 (桐原書店)				
担当教員	勝藤 和子				
到達目標					
1. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 2. 教科書で学ぶ基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 3. 音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安
評価項目1	各単元の基本的な英文法の内容や構文を理解し, 学習した例文と同様のポイントを含む英文を, 文法用語を用いて分析し95%以上正確に説明できる。		各単元の基本的な英文法の内容や構文を理解し, 学習した例文のポイントを用いて分析し, 75%程度正確に説明できる。		各単元の基本的な英文法の内容や構文を理解し, 理解すべきポイントを60%説明できる。
評価項目2	学習した英文法の内容を応用して, モデル文を与えられなくても95%以上文法的に正しい1文単位の簡単な英作文ができる。		学習した英文法の内容を応用して, モデル文を与えられなくても, 空所を補う形式で, 75%程度正確な1文単位の英作文ができる。		学習した英文法の内容を応用して, モデル文を与えられれば, 空所を補う形式で, 文法的に正しい1文単位の簡単な英作文が60%できる。
評価項目3	音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) が, 95%以上正確にできる。		音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) が, 75%程度正確にできる。		音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) が, 60%できる。
評価項目4					
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語Aに引き続き英文法の運用力をさらに発達させる。英文法の内容を通じて英語基礎力を固め, 英語の4技能 (読む・聞く・書く・話す) を総合的に伸ばす。また, リスニング演習を通して聴解力を向上させるとともに語彙力を増強させる。				
授業の進め方・方法	HyperListeningのディクテーションノートに取り組んだ後に, 本冊の問題を解答する。解答解説の後で, 文章全体の音読 (同時読み) を行う。その後, Listening Strategy に取り組む。文法は, 文法項目についての講義の後, ブレイクスルー英文法36の一部の問題を用いて演習に取り組む。予習には, 基本例文ノート, 復習には, ブレイクスルー英文法36ワークブックと基本例文ノートのExerciseを用いる。				
注意点	1. 基本例文ノートの例文書き取り部分は, 本冊を参照しながら空白を埋め, 点線の上に全文を書き写す。予習としてその範囲の授業前に行うこと。 2. 基本例文ノートのExerciseは, 当該章が終了後, 復習として解いてみる。解答が巻末に付属しているため, 赤ペンで添削し, 正しい答えを書き込む。 3. manabaで実施する小テストは, 期限を厳守して提出すること。 4. ワークは, 定期試験前に範囲を示すので, 期限までに解答し, 赤ペン添削を行う。 5. ディクテーションノートは, 授業中にきちんと取り組み, 赤ペン添削を行う。 6. 下記授業計画以外にGTEC (外部試験) の受験にも, 取り組んでもらいます。 7. 基本例文ノート, ワークブック, ディクテーションノートは, 定期試験直前週に提出し, 検印をもらうこと。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 不定詞 (1)	(1) シラバス・学習方法を理解する。 (2) 左の単元の基本的な文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 (3) 左の単元の基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。	
		2週	不定詞 (2) HyperListening Lesson 1	(1) 左の単元の基本的な文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。	
		3週	不定詞 (3) HyperListening Lesson 2	(1) 左の単元の基本的な文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。	
		4週	不定詞 (4) HyperListening Lesson 3	(1) 左の単元の基本的な文法の内容を理解し, 学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の内容を応用して, 文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き, 英語を聴きとって, 正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。	

		5週	動名詞 (1) HyperListening Lesson 4	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		6週	動名詞 (2) HyperListening Lesson 5	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		7週	分詞 (1) HyperListening Lesson 6	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		8週	復習		
	2ndQ	9週	前期中間試験	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		10週	試験返却と解説 分詞 (2)	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		11週	分詞 (3) HyperListening Lesson 7	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		12週	関係詞 (1) HyperListening Lesson 8	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		13週	関係詞 (2) HyperListening Lesson 9	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		14週	関係詞 (3) HyperListening Lesson 10	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		15週	復習	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。	
		16週	前期末試験返却		
	後期	3rdQ	1週	関係詞 (4) HyperListening Lesson 11	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。
			2週	比較 (1) HyperListening Lesson 12	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること(ディクテーション)ができる聴解力を身につける。

4thQ	3週	比較 (2) HyperListening Lesson 13	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	4週	比較 (3) HyperListening Lesson 14	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	5週	仮定法 (1) HyperListening Lesson 15	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	6週	仮定法 (2)	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	7週	復習	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	8週	後期中間試験	
	9週	試験返却と解説 仮定法 (3)	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	10週	否定 (1) HyperListening Lesson 16	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	11週	否定 (2) HyperListening Lesson 17	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	12週	話法 (1) HyperListening Lesson 18	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	13週	話法 (2) HyperListening Lesson 19	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	14週	名詞と冠詞 HyperListening Lesson 20	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。
	15週	総復習	(1) 左の単元の基本的な文法の概念を理解し、学習のポイントを説明できる。 (2) 左の単元の基本的な英文法の知識を応用して、文レベルの英作文ができる。 (3) 音声教材を聴き、英語を聴きとって、正しい綴りで書き取ること (ディクテーション) ができる聴解力を身につける。

		16週	学年末試験返却			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3		
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3		
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	

評価割合						
	定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	英会話
科目基礎情報					
科目番号	1112H21		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	Stretch 1: Student Book (Oxford)				
担当教員	プロフロント クリストファー				
到達目標					
This course is designed to develop listening and speaking skills for English conversation by providing critical thinking opportunities which enable students to practice using an open-ended lecture format. Knowledge of English vocabulary, expressions and grammar is applied to real life situations. Composition and comprehension activities are also utilized in order to continue developing conversation fluency.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	Students are able to converse smoothly with one another and the native teacher.		Students can answer a question or make a comment in a few words and speak freely in a group.		Students cannot understand the majority of exercises and activities and cannot speak easily.
評価項目2	Students speak their opinions directly and utilize critical thinking skills in English.		Students can answer the majority of questions, listen attentively and write their ideas clearly.		Students remain passive, do not express themselves and cannot comprehend the lecture.
評価項目3	Students can take notes entirely in English and can present their ideas clearly and concisely.		Students can take notes in Japanese and grasp the main idea of the lecture but not the details.		Students can take notes in Japanese and do not understand the majority of the lecture.
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	This course focuses on listening and speaking skills for Basic English conversation. Critical thinking opportunities aid students in processing new information and the application of that knowledge is related to real life situations through dialogue practice. Composition and comprehension activities are also utilized.				
授業の進め方・方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Develop listening skills and communication strategies using native English conversation. 2. Gain confidence in speaking and listening and perfect composition writing and critical reading skills. 3. Improve communication skills in order to smoothly engage in conversations with foreign people. 4. Engage in cultural awareness and open-mindedness to others using cultural comparisons. 【授業時間60時間】				
注意点	<p>Students will come to class prepared.</p> <p>Students using a cellphone in class equals one tardiness on the first warning.</p> <p>Students will not sleep in the class.</p> <p>Students will be enthusiastic and enjoy themselves.</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Course and student introductions	Note-taking skills, writing key words and main ideas	
		2週	Formal self-introduction to peers in a professional setting; politeness	Job Hunting exercise; It's + adj. + infinite; asking for repetition / clarification	
		3週	Paced and timed reading diagnostic	Forms of present tense / review of past tenses	
		4週	Reading skills: Previewing; main idea; etc.	Distinguishing between words with similar meanings	
		5週	Vocabulary quiz, exercises to be arranged	Vocabulary list review	
		6週	Cultural Identity vs. Ethnic Fashions	Purpose of international studies / communication	
		7週	International Advertising exercise	Listening for main ideas and more nuanced details, using an outline, comprehension check	
		8週	Mid-Term Exam		
	2ndQ	9週	Performance check 1		
		10週	Metric versus Non-Metric measurements	Understanding numbers and dates; discussion question, converting large numbers or decimal numbers	
		11週	Village is More Global, Language is More Vital	Modals, prepositions, discussion topics	
		12週	Sociology; Presentation on international tourism	Suffixes; Reduction of "be going to" into "gonna"	
		13週	Vocabulary Quiz; The Science of Smiling Discussion and activity	Making notes using a word web; synonyms	
		14週	Simple present for informal narratives; Participle forms	Simple present-tense third person -s/-es; using the dictionary	
		15週	Sports in our lives Grammar activity	Relative clauses, Gerunds as subjects or objects / Infinitives	
		16週	Final Exam		
後期	3rdQ	1週	Performance check 2		

4thQ	2週	Cross-Cultural Research using Direct/Indirect Speech	Conjunctions "and" and "but"; linking consonants to vowels
	3週	Making inferences and eliminating lies	Develop self-editing strategies
	4週	Writing in a Variety of Rhetorical Modes	Improve reading speed; Recognizing new vocabulary
	5週	What's the Right Thing to Do; Philosophical morality.	Identify references in a text (pronouns/nouns)
	6週	Listening for different opinions; speech analysis	Using eye contact, tone of voice and pauses
	7週	Vocabulary quiz; Verb-noun collocations; Content word stress	Predict development and anticipate ideas; active reading
	8週	Mid-Term Exam	
	9週	Performance check 3	
	10週	Presentation of information from lecture notes, relationships between ideas, comparisons and contrasts, cause and effect, persuasion, etc.	Distinguish between the presentation of fact and opinion, context clues (grammatical, semantic, organizational) to deduce meaning
	11週	Vocabulary Quiz; Express and justify an opinion about an important issue or personal experience	Give and seek constructive feedback through peer review
	12週	Reading skills: scanning; patterns of organization; Verb tense for generalizations and hedging	Recognize accurate paraphrases of information from text
	13週	Paced reading: "Plagiarism Lines Blur" Reading skills: Expanding fixations; critical thinking	Use of agreement / counterargument and refutation; use of "should / shouldn't"
	14週	idioms and expressions in cultures throughout the world	"So" and "Such" with adjectives; linking vowel sounds
	15週	The Science of Fear; Psychology related to Identity	Emotional expression; Tell a personal story
	16週	Final Exam	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
			英語運用の基礎となる知識	明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3		
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3		
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	

				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力向上のための学習		英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み	その他	合計
総合評価割合	50	15	15	10	10	100
基礎的能力	50	15	15	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	公共
科目基礎情報					
科目番号	1112I32		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	詳述 公共 (実教出版)				
担当教員	今田 浩之				
到達目標					
1.民主政治の基本理論として社会契約説を説明できる。 2.日本国憲法を基軸に現在の政治制度を説明できる。 3.現在の国民経済や経済関連の諸政策を説明できる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベル(可)	
到達目標1		民主政治を基本理論として社会契約説を説明できる。	社会契約説の基本枠組み全体を説明できる。	社会契約説の基本枠組みの要点を説明できる。	
到達目標2		現在の政治制度の基本原理・制度・運用を説明できる。	現在の政治制度の基本構造の全体を説明できる。	現在の政治制度の基本構造の要点を説明できる。	
到達目標3		現在の国民経済の問題点や経済関連の諸政策の課題を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策の概要を説明できる。	現在の国民経済や経済関連の諸政策の要点を説明できる。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目では、民主政治の在り方と経済社会の仕組みについて包括的に学習する。				
授業の進め方・方法	授業では、まず、民主主義の基本原則を理解したうえで、現在の政治制度を、日本国憲法を基軸に考察する。今日的な人権問題や社会問題についても学ぶ。次いで、経済の基礎概念を理解した上で、現在の国民経済の把握方法や経済関連の諸政策を考察する。現代企業論についても学ぶ。以上により、政治と経済の基本的論点について説明できる能力を身につける。				
注意点	日常的に、政治や経済の問題について主体的に関心を持つようにしてください。 時事的な話題や自分の身の回りの政治や経済に目を向け、授業との関連付けをしましょう。 参考書：日経大予測 2024 (日経 B P 日本経済新聞出版)				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		2週	政治原論	社会と政治、社会契約説の基本枠組みについて説明できる。	
		3週	政治各論 「大日本帝国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		4週	「大日本帝国憲法」	天皇大権、統治機構、臣民の権利について説明できる。	
		5週	「日本国憲法」 国民主権・権力分立	憲法、国民主権、権力分立について説明できる。	
		6週	国民主権・権力分立	憲法、国民主権、権力分立について説明できる。	
		7週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		8週	中間試験		
	2ndQ	9週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		10週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		11週	国会・選挙制度・政党	国民代表、選挙制度、立法権、国会制度、政党について説明できる。	
		12週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		13週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		14週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		15週	内閣・官僚制	議院内閣制、行政権、内閣制度、官僚制、行政組織などを説明できる。	
		16週	期末試験返却		
後期	3rdQ	1週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		2週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		3週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	
		4週	裁判所・基本的人権	司法権、裁判制度、基本的人権、司法審査制について説明できる。	

		5週	圧力団体・世論	日本の圧力団体、世論について説明できる。
		6週	経済原論	経済理論、経済体制、経済主体、経済活動について説明できる。
		7週	経済各論 市場経済と価格機構	市場機構、価格機構について説明できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	市場経済と価格機構	市場機構、価格機構について説明できる。
		10週	国民経済	国民所得、国富について説明できる。
		11週	景気循環	景気変動、景気指標について説明できる。
		12週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		13週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		14週	経済の諸政策	金融政策、財政政策、経済政策について説明できる。
		15週	現代企業論	企業統治、企業の社会的責任について説明できる。
		16週	期末試験返却	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	中間・期末試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	60	0	30	0	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

阿南工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	歴史総合
科目基礎情報					
科目番号	1112I51		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教養		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2	
教科書/教材	明解 歴史総合 (帝国書院)、明解 歴史総合ノート (帝国書院)				
担当教員	濱田 香織, 今田 浩之				
到達目標					
<p>1. 近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本をひろく相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解する。</p> <p>2. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>3. 日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベル (可)
到達目標1	近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本をひろく相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を十分に理解する。		近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本をひろく相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解する。		現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解する。
到達目標2	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする十分な力を身に付ける。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする力を身に付ける。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする力を身に付ける。
到達目標3	日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を十分に深める。		日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。		日本国民としての自覚、自国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を持つ。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。				
授業の進め方・方法	学生それぞれが長期的な変化に関わる諸資料を考察し、歴史の事象への問いを持つ。学生が表現した問いを踏まえ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史に関する理解を深める。学生が主題を設定して、考察し、表現する。				
注意点	主体的な態度で講義に参加するようにしましょう。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	各地域の諸文明 地域の歩み 1部 歴史の扉 1章歴史と私たち 2章歴史の特質と資料	身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解する。身の回りの事象と世界の歴史との結び付きについて考察し、表現することができる。絵画や文書資料、統計データなどを事実と解釈とを区別して読み解くことの重要性や、歴史叙述の特性について理解することができる。	
		2週	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界	18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を考察し、理解することができる。「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自らの言葉で表現することができる。	
		3週	2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結び付く世界	18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		4週	2部 近代化と私たち 2章 欧米諸国における近代化	市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を考察し、理解することができる。	
		5週	2部 近代化と私たち 2章 欧米諸国における近代化	市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関りを考察し、自らの言葉で表現することができる。市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響や課題について、追究することができる。	
		6週	2部 近代化と私たち 3章 近代化の進展と国民国家形成	国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について、資料を考察し、理解することができる。	
		7週	2部 近代化と私たち 3章 近代化の進展と国民国家形成	国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自らの言葉で表現することができる。国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		8週	中間試験	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。	
	2ndQ	9週	2部 近代化と私たち 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を考察し、理解することができる。	

		10週	2部 近代化と私たち 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、自らの言葉で表現することができる。欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		11週	2部 近代化と私たち 5章 近代化が進む日本と東アジア	明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を考察し、理解することができる。	
		12週	2部 近代化と私たち 5章 近代化が進む日本と東アジア	明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自らの言葉で表現することができる。明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		13週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応	国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を考察し、理解することができる。	
		14週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応	第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、自らの言葉で表現することができる。 勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の政治参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
		15週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 2章 国際協調と大衆社会の広がり	ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を考察し、理解することができる。	
		16週	期末試験返却	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。	
	後期	3rdQ	1週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 2章 国際協調と大衆社会の広がり	新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自らの言葉で表現することができる。ヴェルサイユ体制に基づく国際社会の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
			2週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3章 日本の行方と第二次世界大戦	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関りに着目しながら、資料を考察し、理解することができる。
			3週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3章 日本の行方と第二次世界大戦	ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自らの言葉で表現することができる。世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
			4週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 4章 再出発する世界と日本	冷戦構造の形成と、国際連合を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解することができる。
			5週	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 4章 再出発する世界と日本	国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、自らの言葉で表現することができる。大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
			6週	4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本	冷戦下の緊張と緩和の経緯と、その中で日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を考察し、理解することができる。
			7週	4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本	冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自らの言葉で表現することができる。
			8週	中間試験	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。
		4thQ	9週	4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本	冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。
10週			4部 グローバル化と私たち 2章 多極化する世界	冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を考察し、理解することができる。	
11週			4部 グローバル化と私たち 2章 多極化する世界	各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自らの言葉で表現することができる。	
12週			4部 グローバル化と私たち 2章 多極化する世界	冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
13週			4部 グローバル化と私たち 3章 グローバル化のなかの世界と日本	冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を考察し、理解することができる。	
14週			4部 グローバル化と私たち 3章 グローバル化のなかの世界と日本	グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自らの言葉で表現することができる。	
15週			4部 グローバル化と私たち 3章 グローバル化のなかの世界と日本	冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究することができる。	
16週			期末試験返却	講義で学習した内容を理解し、その成果を十分に発揮することができる。	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	

			近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	
			帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	
			第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合

	中間・定期試験	小テスト	ポートフォリオ	発表・取り組み姿勢	その他	合計
総合評価割合	70	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0